



東京農業大学大学院

GRADUATE SCHOOL OF
TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE
2024





「農」の進化に、挑み続ける













INDEX

東京農大大学院の「実学主義」…… 3
学位取得のプロセス …… 5

農学研究科
■農学専攻 …… 7
■動物科学専攻 …… 9
■生物資源開発学専攻 …… 11
■デザイン農学専攻 …… 13

応用生物科学研究科
■農芸化学専攻 …… 15
■醸造学専攻 …… 17
■食品安全健康学専攻 …… 19
■食品栄養学専攻 …… 21

生命科学研究科
■バイオサイエンス専攻 …… 23
■分子生命化学専攻 …… 25
■分子微生物学専攻 …… 27

地域環境科学研究科
■林学専攻 …… 29
■農業工学専攻 …… 31
■造園学専攻 …… 33
■地域創成科学専攻 …… 35

国際食料農業科学研究科
■国際農業開発学専攻 …… 37
■農業経済学専攻 …… 39
■国際アグリビジネス学専攻 …… 41
■国際食農科学専攻 …… 43

生物産業学研究科
■北方圏農学専攻 …… 45
■海洋水産学専攻 …… 47
■食香粧化学専攻 …… 49
■自然資源経営学専攻 …… 51
■生物産業学専攻 …… 53

新時代の農学を学ぶ３つのキャンパス …… 55
奨学金制度について …… 56
学費について …… 57
入試情報 …… 59

農の心と倫理感を備え、地球の未来を耕す人材を育てます



大学院各研究科の目的

【農学研究科】

大学院農学研究科は、国内外の農学諸分野におけるフロンティアとして、見識と実力、さらに健全で調和のとれた人間性を有する研究者及び高度専門技術者の人材育成を目指し、実学主義教育のもと論理的思考力と問題解決能力の獲得及び向上を図り、持続可能な生産農学分野の教育・研究を行うことを目的とする。

【応用生物科学研究科】

大学院応用生物科学研究科は、人と環境が調和する生活を多元的に支える応用生物科学領域における高度な知識・技術・研究能力を身に付けた人材育成を目指し、実学主義教育のもと論理的思考力と問題解決能力の獲得及び向上を図り、生物生産・生物資源利用から食料・健康・環境・エネルギーといった広域の農学分野の教育・研究を行うことを目的とする。

【生命科学研究科】

大学院生命科学研究科は、生命科学の学問領域において、その基本的な能力を身につけた人材が、微生物から高等生物に至るまで分子レベルでの機能解析や生物機能を制御する分子の創製などにおいて、より専門的な知識、技術、思考力を備えることで、地球規模での持続的な成長を実現するための問題解決に対応することが可能な能力を習得させることを目的とする。

【地域環境科学研究科】

大学院地域環境科学研究科は、身近な地域から地球規模に至るまでの地域環境に関する諸問題における高度な理解力と課題解決のための専門知識、ならびに調和のとれた地域環境を構築するための生物資源の保全・利用・管理に関する専門知識と専門技術、さらに取り扱う諸問題の社会的意義を自覚し、責任感を持って課題解決にあたることが出来る高度な倫理観と使命感を習得させることを教育研究上の目的とする。

【国際食料農業科学研究科】

大学院国際食料農業科学研究科は、「実学主義」に基づいて農学・食品科学および経済学・経営学・人文科学にわたる総合的なアプローチにより、食料・農業・環境領域での各国・地域の特性を活かした発展の実現に向けた課題の解決に取り組む柔軟な判断力と分析能力および国際的視野に立った社会貢献の遂行能力を修得させることを目的とする。

【生物産業学研究科】

大学院生物産業学研究科は、幅広い学問領域の知識を備え、高度な専門知識と能力及び創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ人材の育成を目指し、生物産業学に関する実学の精神と文理融合の教育体系に基づき、北方圏の地域性を活用した農林水産に関わる生物資源、バイオテクノロジー、経営経済分野の教育・研究を行うことを目的とする。

東京農大大学院の

実学主義

地球に貢献する研究者・技術者を目指す一人ひとりの力を育む

本学の教育研究の理念は「実学主義」です。実学とは、単なる実用の学ではなく、その物、現場で自らの五感を駆使して、課題を見つけ、その課題がなぜ起きているのかを自ら考え、科学的に実証することです。まだ誰も答えを見つけていないテーマを設け、自分で考える力を養うことが、本学における学びの柱となります。

連携大学院方式

2001年度より大学院教育の一部に連携大学院方式による教育研究方法を開始しました。これは、「科学技術基本法」に沿った学際的学問分野の発展に対応するため、大学が国公立および民間等の研究所と連携して研究領域の拡大と多様化を図るものです。また、科学技術の著しい発展に伴い、従来の概念を超えた新しい学問領域が開拓される現在の局面や高度に専門化された領域並びに学際的な研究課題に取り組むため、大学院組織の壁を乗り越えさらに発展させた試みです。

連携先の研究者を本学大学院の客員教員として迎えることにより、大学院生は相手側の研究所にて研究指導を受けたり、大学にて客員教員による特別講義等を受講することができます。







課題解決のアプローチ

広域の農学研究

本学の使命に幅広く人類の生活に役立つ科学の追究があります。現代社会に横たわる問題を解決するには、農学を軸に、健康や福祉、医学、食品の安全など、さまざまな領域への広域的なアプローチが必要です。研究では、専門領域の枠組みを超えた新たな「知」の世界を体験しつつ、社会のニーズにアジャストすることを狙いとしています。



社会人が学びやすい環境

社会人特別入試

2017年度入試から社会人特別入試が全ての専攻に導入されました。
さらに、長期履修制度も導入され、職業を有している等の事情により標準年限で修了することが困難な場合に、標準年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することで、社会人の方が学びやすい環境になりました。



体で感じて理解を深める

フィールドワーク

本学には、机上の理論ではなく、現地で問題を発見し、仮説を立てて検証し、結論を導き出すフィールドワークを大切にする伝統が息づいています。それは、「稲のことは稲にきけ、農業のことは農民にきけ」の言葉を残した初代学長 横井時敬の教えに基づくものです。多角的な経験から幅広い視野を養い、未来の大きな可能性をつかむことができます。



ひと・もの・ことをつなげる

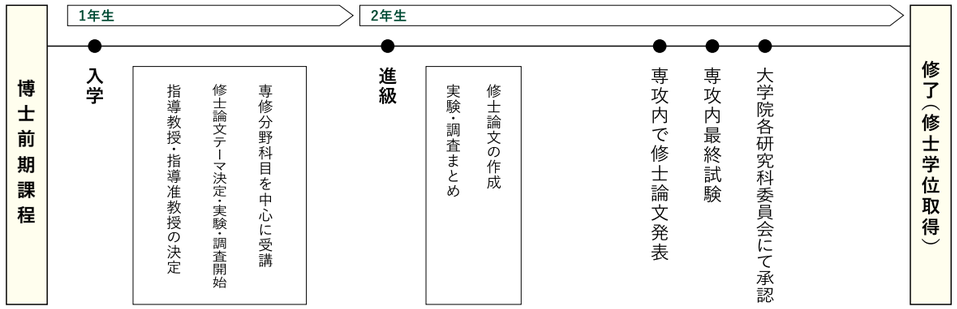
地域貢献活動

食料、環境、健康、エネルギーなどの領域から、地域の伝統的文化や地域の魅力を活かした社会の創生を目指しています。教育・研究等を通じての人材育成「ひとづくり」、環境保全・地域づくり等を通じての地域産業資源を利活用する「ものづくり」、地域マネジメントの計画・政策等をコーディネートする「ことづくり」、の3つの視点から社会に貢献しています。



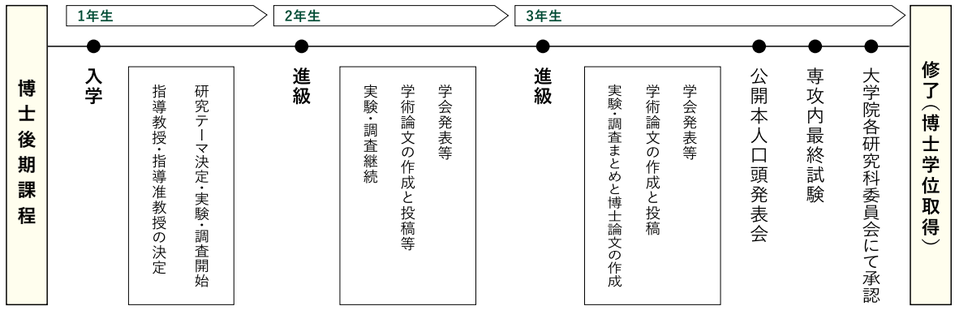
学位取得のプロセス

修士および博士学位を取得するための標準的なプロセスは次のとおりです。
これを目安に、指導教員からのガイダンスに従い、各自の研究計画を組み立ててください。



博士前期課程の修了要件

各専攻に配当された必修科目及び選択必修科目を修得すること。そのうえで、博士前期課程に2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ必要な研修指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。



博士課程の修了要件

各専攻に配当された必修科目及び選択必修科目を修得すること。そのうえで、大学院に5年（博士前期課程又は修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

農学研究科	農学専攻	博士前期課程定員 14名	博士後期課程定員 5名	キャンパス 厚木	P7
	動物科学専攻	博士前期課程定員 12名	博士後期課程定員 4名	キャンパス 厚木	P9
	生物資源開発学専攻	博士前期課程定員 10名	博士後期課程定員 2名※	キャンパス 厚木	P11
	デザイン農学専攻	博士前期課程定員 8名	博士後期課程定員 2名※	キャンパス 厚木	P13
応用生物科学研究科	農芸化学専攻	博士前期課程定員 30名	博士後期課程定員 5名	キャンパス 世田谷	P15
	醸造学専攻	博士前期課程定員 20名	博士後期課程定員 2名	キャンパス 世田谷	P17
	食品安全健康学専攻	博士前期課程定員 20名	博士後期課程定員 3名	キャンパス 世田谷	P19
	食品栄養学専攻	博士前期課程定員 6名	博士後期課程定員 2名	キャンパス 世田谷	P21
生命科学研究科	バイオサイエンス専攻	博士前期課程定員 30名	博士後期課程定員 5名	キャンパス 世田谷	P23
	分子生命化学専攻	博士前期課程定員 20名	博士後期課程定員 3名	キャンパス 世田谷	P25
	分子微生物学専攻	博士前期課程定員 20名	博士後期課程定員 3名	キャンパス 世田谷	P27
地域環境科学研究科	林学専攻	博士前期課程定員 8名	博士後期課程定員 2名	キャンパス 世田谷	P29
	農業工学専攻	博士前期課程定員 8名	博士後期課程定員 2名	キャンパス 世田谷	P31
	造園学専攻	博士前期課程定員 10名	博士後期課程定員 2名	キャンパス 世田谷	P33
	地域創成科学専攻	博士前期課程定員 6名	博士後期課程定員 2名	キャンパス 世田谷	P35
国際食料農業科学研究科	国際農業開発学専攻	博士前期課程定員 18名	博士後期課程定員 2名	キャンパス 世田谷	P37
	農業経済学専攻	博士前期課程定員 8名	博士後期課程定員 2名	キャンパス 世田谷	P39
	国際アグリビジネス学専攻	博士前期課程定員 10名	博士後期課程定員 2名	キャンパス 世田谷	P41
	国際食農科学専攻	博士前期課程定員 7名	博士後期課程定員 2名	キャンパス 世田谷	P43
生物産業学研究科	北方圏農学専攻	博士前期課程定員 7名		キャンパス 北海道オホーツク	P45
	海洋水産学専攻	博士前期課程定員 5名		キャンパス 北海道オホーツク	P47
	食香粧化学専攻	博士前期課程定員 5名		キャンパス 北海道オホーツク	P49
	自然資源経営学専攻	博士前期課程定員 3名		キャンパス 北海道オホーツク	P51
	生物産業学専攻		博士後期課程定員 8名	キャンパス 北海道オホーツク	P53

※2024年4月開設予定（届出申請中）。内容は予定であり、変更する場合があります。

農学専攻

Agricultural Science

農のもつ新たな価値の創出

厚木キャンパス

〒243-0034 神奈川県厚木市船子1737



指導教授・准教授（博士前期・博士後期課程）2024年4月1日予定

- 岩波　徹 教授 …… 植物病原微生物の発生、進化と多様性に関する研究
- 篠原弘亮 教授 …… 未利用な微生物や植物を活用した植物病害の生物防除に関する研究
- 髙畑　健 教授 …… 実用的な野菜栽培技術の開発
- 西尾善太 教授 …… ゲノム情報等を利用した作物の効率的な育種法に関する研究
- 馬場　正 教授 …… 果物、野菜、花の収穫後寿命を左右する生物的ならびに環境的要因に関する研究
- 藤澤弘幸 教授 …… 高品質果実生産へ向けた小果樹類の栽培技術に関する研究
- 峯　洋子 教授 …… 野菜の生育制御のための生理学的研究

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

複数の視点から新時代の農学を実現

農学に求められる役割は複雑化、多様化しています。そのため本専攻では、環境に負担の少ない作物生産、植物の遺伝的多様性の解明やそれらを活用した育種、病原体の特性解明と微生物や病害に強い植物を活用した病害防除、高品質かつ機能性に富む果樹・野菜・花の生産、栽培環境と植物生理反応の解明、収穫後の農産物鮮度保持技術などの研究に取り組み、安定した食料生産の実現と農の持つ新たな価値の創出を目指しています。

カリキュラム

博士前期課程

農学研究科共通科目　知的財産管理法／インターンシップ

論文英語／研究倫理／プレゼンテーション法／植物生理生態学／生物環境調節論／草地学特論／水圏生物学／分子遺伝学／作物生産学特論Ⅰ／作物生産学特論Ⅱ／植物保護学特論Ⅰ／植物保護学特論Ⅱ／園芸生産学特論Ⅰ／園芸生産学特論Ⅱ／植物機能・利用学特論Ⅰ／植物機能・利用学特論Ⅱ／農学特別演習Ⅰ／農学特別演習Ⅱ／農学特別演習Ⅲ／農学特別演習Ⅳ／農学特別実験Ⅰ／農学特別実験Ⅱ／農学特別実験Ⅲ／農学特別実験Ⅳ

博士後期課程

農学研究科共通科目　インターンシップ

英語論文作成法／作物生産学後期特論／植物保護学後期特論／園芸生産学後期特論／園芸機能開発学後期特論／特別研究指導Ⅰ／特別研究指導Ⅱ／特別研究指導Ⅲ

主な就職先

オカモト／常磐植物化学研究所／日本政策金融公庫／独立行政法人日本学術振興会／バイオエナジー／ペネッセスタイルケア／細川洋行／三菱食品／渡辺農事／教員（佐賀県教育委員会）

研究ピックアップ



メタン発酵消化液を利用した養液栽培

食品ごみなどからバイオガスを取り出すことのできるメタン発酵技術の導入にあたって、後に残る消化液の処分が課題となっています。高濃度のアンモニア態窒素を含むことから、養液栽培用液肥として活用するためのバイオフィルター硝化法を開発中です。



有用微生物でPlant Rescue

健全なイネから分離した複数の細菌からイネの育苗期に発生するもみ枯細菌病、苗立枯菌病および褐条病に対して防除効果のある*Herbaspirillum*属の細菌を見出しました。この細菌を用いることで、薬剤耐性菌が顕在化している病害にも高い防除効果が期待できます。



高糖度ペピーノ生産技術

ペピーノは主にデザートとして利用される南米原産の野菜です。最近、高糖度ペピーノ生産のための簡易で安価な「リング処理」を開発しました。現在はペピーノの普及とリング処理の実用化に向けての研究・実験を進めています。



省エネ冷蔵庫「雪室」でリンゴ貯蔵

熟度の進んだリンゴは味が良いが貯蔵性は劣ります。雪のエネルギーだけで冷やす「雪室」と最新の鮮度保持技術を組み合わせて、11月に収穫した熟度の進んだリンゴを5月まで貯蔵することに成功しました。現在各地の雪室を訪ねてこの技術の普及を進めています。

動物科学専攻

Animal Science

動物の生命と生産のサイエンスを軸に展開

厚木キャンパス
〒243-0034 神奈川県厚木市船子1737



指導教授・准教授（博士前期・博士後期課程） 2024年4月1日予定

- 岩田尚孝 教授 …… 加齢による生殖細胞の変化とその分子メカニズムの解明
- 内山秀彦 教授 …… ヒトと動物の関係に関する研究
- 庫本高志 教授 …… 動物を用いた遺伝と栄養の相互作用の解明
- 桑山岳人 教授 …… 鳥類の生殖内分泌に関する研究
- 白砂孔明 教授 …… 妊娠の生理学的および病態生理学的分子機構に関する研究
- 鳥居恭司 教授 …… 細菌毒素の生体内における作用の研究
- 野村こう 教授 …… 家畜のDNA多型に関する研究
- 半澤　恵 教授 …… 家畜・家禽の環境適応に関する生理遺伝学的研究
- 平野　貴 教授 …… 牛の量的形質、遺伝的不良形質に関する研究
- 増田宏司 教授 …… 伴侶動物と飼い主の関係に関する研究

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

生命科学と生産科学の2分野を学ぶ

環境保全を考慮した広範な畜産学の学術・研究領域の中で、動物の遺伝、生殖、代謝、免疫などの各種生命現象に関する「生命科学領域」と、家畜の飼養管理や予防衛生、畜産物の機能性・流通などの「生産科学領域」の2つを重点的に追究するところに本専攻の特徴があります。現在では、生態系から動物体、生産物、細胞から分子レベルまで、多彩な視点から家畜の生産性と生産物の質的向上、生産と環境との調和を図ることが重要な課題であり、高い見識を持ってその課題に取り組める論理的思考力を持った人材の育成を目指します。

カリキュラム

博士前期課程

農学研究科共通科目　知的財産管理法／インターンシップ

研究倫理／論文英語／プレゼンテーション法／研究計画立案法／特別講義／先端研究特別講義／動物生殖学特論Ⅰ／動物生殖学特論Ⅱ／動物遺伝学特論Ⅰ／動物遺伝学特論Ⅱ／動物生理学特論Ⅰ／動物生理学特論Ⅱ／動物栄養学特論Ⅰ／動物栄養学特論Ⅱ／動物衛生学特論Ⅰ／動物衛生学特論Ⅱ／動物行動学特論Ⅰ／動物行動学特論Ⅱ／動物科学特別演習Ⅰ／動物科学特別演習Ⅱ／動物科学特別演習Ⅲ／動物科学特別演習Ⅳ／動物科学特別実験Ⅰ／動物科学特別実験Ⅱ／動物科学特別実験Ⅲ／動物科学特別実験Ⅳ

博士後期課程

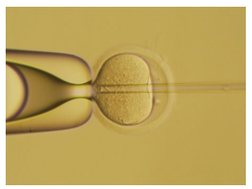
農学研究科共通科目　インターンシップ

英語論文作成法／動物生殖学後期特論／動物遺伝学後期特論／動物生理学後期特論／動物栄養学後期特論／動物衛生学後期特論／動物行動学後期特論／特別研究指導Ⅰ／特別研究指導Ⅱ／特別研究指導Ⅲ

主な就職先

医療法人社団栄賢会 梅ヶ丘産婦人科／尾崎理化／科研製薬／医療法人蔵本ウイメンズクリニック／医療法人社団寿幸会 田園都市レディースクリニック／東亜薬品工業／西酒造／日本アクセス／教員（横浜市教育委員会）／公務員（岩手県庁／長崎県庁）

研究ピックアップ



加齢に伴う生殖機能低下機構の解明

ヒトは加齢に伴い妊娠することが難しくなります。動物をモデルとしてさまざまな解析技術を駆使し、卵子・卵子周囲細胞・卵管・子宮などの老化やそれによる妊娠機構の破綻のメカニズムの解明に挑戦しています。



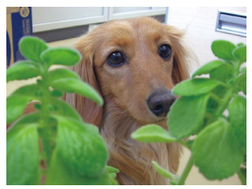
動物集団の分子系統遺伝学

アジアを中心としてさまざまな国や地域の家畜集団や近縁野生種を探索してDNAを収集し、遺伝的な変異や多様性を解析しています。家畜の起源や家畜化に伴う遺伝的変化、品種の類縁関係の解明などを目指しています。



動物の疾病の作用、予防・制御の研究

動物が病気に罹る背景、予防・制御方法、さらには人獣共通の疾病について研究を行っています。特に細菌が出す毒素による疾患の作用とメカニズム、動物の生態における食中毒菌・毒素の制御に関して研究を行っています。



人に対する動物の情動反応

動物と飼い主の関係性について研究しています。特に、飼い主の存在が、動物の被るストレス緩和に貢献しているかどうかを、音声等の聴覚刺激を材料としながら、動物行動学および生理学的手法を用いて検証しています。

生物資源開発学専攻

Bioresource Development

生物多様性の保全と利活用の探究

厚木キャンパス
〒243-0034 神奈川県厚木市船子1737



指導教授・准教授（博士前期・博士後期課程）2024年4月1日予定

- 石川　忠 教授 …… カメムシ目昆虫の分類学的研究
- 小島弘昭 教授 …… 植食性甲虫の分類と生態ならびに応用昆虫体系学
- 佐々木剛 教授 …… 深海生物の多様性に着目した資源開発
- 菱田敦之 教授※ …… 薬用植物の国産化・品質向上に向けた栽培技術の開発
- 松嶋賢一 教授 …… 薬用植物の国内栽培に関する研究
- 松林尚志 教授 …… 野生動物の生態や保全、管理に関する研究
- 三井裕樹 教授 …… 野生植物の種多様性保全と資源利用に関する研究
- 山田　晋 教授 …… 半自然的環境の復元・創出に向けた生態学的研究
- 和久井健司 教授 …… アブラナ科植物の遺伝育種学的研究

※博士前期課程のみ担当
☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

生物多様性・生物資源に関する高度な知識と問題解決能力を持った人材の育成

生物資源開発学専攻は、農学の基盤となる植物、動物、昆虫から構成される生態系の保全・管理を目的とした「生物多様性管理分野」、それら生物の持つ様々な特性を見いだし、資源としての利活用を目的とした「生物資源利用分野」から構成されます。植物多様性学、野生動物学、昆虫学、遺伝資源利用学、そして薬用資源学の5つの専修を設置し、農業生態系から自然生態系にいたる生物多様性・生物資源に関する高度な知識と問題解決能力を持った人材の育成を目指します。

カリキュラム

博士前期課程
農学研究科共通科目　知的財産管理法／インターンシップ

論文英語／研究倫理／プレゼンテーション法／生物多様性管理学概論／
生物資源利用学概論／植物多様性学特論／昆虫学特論／野生動物学特論／
薬用資源学特論／遺伝資源利用学特論／生物資源開発学特別演習Ⅰ／
生物資源開発学特別演習Ⅱ／生物資源開発学特別演習Ⅲ／
生物資源開発学特別演習Ⅳ／生物資源開発学特別実験Ⅰ／生物資源開発学特別実験Ⅱ／
生物資源開発学特別実験Ⅲ／生物資源開発学特別実験Ⅳ

博士後期課程※
農学研究科共通科目　インターンシップ

英語論文作成法／植物多様性学後期特論／野生動物学後期特論／昆虫学後期特論／
薬用資源学後期特論／遺伝資源利用学後期特論／特別研究指導Ⅰ／特別研究指導Ⅱ／
特別研究指導Ⅲ
※2024年4月開設予定（届出申請中）。内容は予定であり、変更する場合があります。

就職先の展望

一般企業（環境コンサルタント、研究開発、技術職等）、公務員（農水省、環境省、厚労省、都道府県の農業部門や公園管理部門等）、博物館関連施設、大学院博士後期課程進学等。

研究ピックアップ



野生植物の保全研究

春に雑木林の林床で美しい花を咲かせるキンラン。近年、林の未管理や寄生バエによる果実の食害で個体数は減り続けています。植物と生育環境や他の生物との相互作用の解明を目指した研究を行っています。



種の正体を明らかにする

昆虫の多様性の研究では新種の発見が多々あります。形態・分子情報をもとに、類縁関係や種内構造を精査のうえ種の正体を分類学的に解明します。この積み重ねが種多様性の全貌を明らかにしていきます。



薬用植物の国内栽培

主に漢方薬原料となる生薬の自給率向上を目指して，生薬のもととなる薬用植物を国内で栽培するために必要な栽培管理・加工・調製手法の確立，品質の維持を目指して研究を行っています。



収集遺伝資源の特性を研究

遺伝資源を保全すると共に新たな有用形質を見出すため、ミャンマーの在来野菜種子を現地にて探索・収集し、その遺伝的多様性を調査．現地のアブラナ科野菜は日本の品種と大きく異なる遺伝子型をもつことが明らかになりました。

デザイン農学専攻

Agricultural Innovation for Sustainability

豊かで持続可能な未来を切り拓く新しい農学

厚木キャンパス
〒243-0034 神奈川県厚木市船子1737



指導教授・准教授（博士前期・博士後期課程）2024年4月1日予定

- 加藤　浩 教授 …… 地球温暖化に対応した高温耐性遺伝子の単離に関する研究
- 小池安比古 教授 …… 切り花および鉢物の周年生産に関する研究
- 櫻井健志 教授 …… 昆虫の化学感覚の分子メカニズムの解明とバイオセンサへの応用
- 多田耕太郎 教授 …… 畜産副産物の食材への利用
- 谷口亜樹子 教授 …… 未利用資源を有効活用した機能性食品の開発
- 野口治子 教授 …… 伝統食品の特性解明と新規食品素材の開発
- 松田浩敬 教授 …… 発展途上国の経済発展と健康に関する研究

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

農学に基づいた社会のあり方をデザイン

近年、持続可能な社会構築への社会的な要請が高まっています。デザイン農学専攻は、文理の枠にとらわれることなく、世界の食料、環境、資源・エネルギー問題を広く俯瞰しながら、作物栽培や家畜の飼養による食料生産だけでなく、農畜産物、食品、および生物の持つ機能や特性とその利用可能性、生物を活用した人の心身の健康への貢献などに関する分析を土台に、設計科学としての農学に基づいた社会のあり方をデザインする能力を有する人材の育成を目指します。

カリキュラム

博士前期課程
農学研究科共通科目　知的財産管理法／インターンシップ

研究倫理／論文英語／プレゼンテーション法／デザイン農学詳論／
イノベーション農学実験調査法／サスティナビリティ農学実験調査法／特別講義／
イノベーション農学特論I／イノベーション農学特論II／サスティナビリティ農学特論I／
サスティナビリティ農学特論II／デザイン農学特別演習I／デザイン農学特別演習II／
デザイン農学特別演習III／デザイン農学特別演習IV／デザイン農学特別実験I／
デザイン農学特別実験II／デザイン農学特別実験III／デザイン農学特別実験IV

博士後期課程※
農学研究科共通科目　インターンシップ

英語論文作成法／イノベーション農学後期特論／サステイナビリティ農学後期特論／
特別研究指導I／特別研究指導II／特別研究指導III
※2024年4月開設予定（届出申請中）。内容は予定であり、変更する場合があります。

就職先の展望

研究職（大学、研究施設）、行政職（一般行政、技術職、専門職）、教育施設（農業（高校））、独立行政法人、農林水産業、食品産業、外食産業、健康・医療・福祉関係、環境系産業、農業系シンクタンク・コンサル

研究ピックアップ



昆虫に学ぶ匂いセンサ開発

昆虫は犬に匹敵する嗅覚機能を持っています。最先端のバイオテクノロジーを駆使して、昆虫の嗅覚機能を遺伝子レベルでデザインすることで、特定の匂いを超高感度で精確に探知するバイオセンサの開発を行っています。



新規発酵食品の開発

発酵は多くの魅力と可能性を秘めています。この技術を応用し、畜産物をはじめとする様々な食材の加工に挑戦しています。研究を通じて、限りある食資源を有効に利用し、世界の「食」に関わる問題の解決を目指しています。



地球温暖化対策の食品開発

海藻が吸収する二酸化炭素「ブルーカーボン」に着目し、褐藻類のアカモクを養殖して地球温暖化対策を行うとともに、この海藻を用いて新規食品の開発を行っています。地球環境に役立つ食品素材の機能性を研究しています。



豊で持続可能な社会の構築

新たな価値観による持続可能な社会が求められています。世帯や地域での食農教育、街中菜園によるコミュニティづくり、途上国の栄養問題の解決など、地道なフィールドワークや地域社会との協働等により、豊かで持続可能な社会の構築を目指しています。

農芸化学専攻

Agricultural Chemistry

生命の基礎研究から応用を紡ぎ出す

世田谷キャンパス

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1







指導教授・准教授（博士前期・博士後期課程）2024年4月1日予定

- 犬伏和之 教授 …… 循環型農業と土壌の役割解明
- 井上　順 教授 …… 抗メタボリックシンドローム作用を有する食品成分に関する研究
- 梶川揚申 教授 …… 共生微生物によるワクチン・ドラッグデリバリーシステムの開発
- 須恵雅之 教授 …… 植物二次代謝の酵素学的・分子生物学的研究
- 辻井良政 教授 …… 米飯の食味形成機序の解明ならびに新規米飯加工技術の開発
- 野口智弘 教授 …… 食品の特性に与えるプロテインジスルフィドイソメラーゼの影響
- 樋口恭子 教授 …… 植物による無機イオン吸収、輸送および細胞内での利用に関わる生理学・生化学・分子生物学的研究
- 松島芳隆 教授 …… 有機合成化学的アプローチによる生物の機能やその制御に関する研究
- 村田容常 教授 …… 食品の加工貯蔵に関する化学的研究、特にメイラード反応や酵素的褐変
- 山本祐司 教授 …… ガン抑制メカニズムが生活習慣病に及ぼす役割
- 横田健治 教授 …… 微生物・植物間の相互作用に関与する生理活性物質の同定と機能解析

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

実験科学者への第一歩を踏み出す

実学主義の理念を基に、今日の課題を食料、環境、健康の観点から解決することを研究の目的としています。すべての生物に共通の基本構造と生命反応、進化にともない獲得した特異構造と高次生命現象の本質的・統一的な理解を深めつつ、生産環境の保全・維持における全人類的課題を基礎的・応用的に研究していきます。本専攻では、土壌肥料学、植物生産化学、生物有機化学、応用微生物学、食料資源理化学、栄養生化学の6つの専修を設置。専門領域の研究を通し、理論の構築と先端的技術の修得を目指せる構成となっています。

カリキュラム

博士前期課程

応用生物科学研究科共通科目　知的財産管理法／インターンシップ

研究倫理／論文英語／プレゼンテーション法／生体機能化学I／環境科学／生体機能化学II／遺伝子工学／土壌肥料学特論／植物生産化学特論／応用微生物学特論／食料資源理化学特論／生物有機化学特論／栄養・生化学特論／農芸化学特別演習I／農芸化学特別演習II／農芸化学特別演習III／農芸化学特別演習IV／農芸化学特別実験I／農芸化学特別実験II／農芸化学特別実験III／農芸化学特別実験IV

博士後期課程

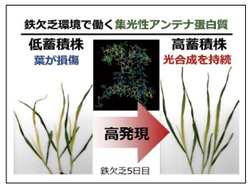
応用生物科学研究科共通科目　知的財産管理法・研究倫理特論／インターンシップ

論文英語作成／土壌肥料学後期特論／植物生産化学後期特論／応用微生物学後期特論／食料資源理化学後期特論／生物有機化学後期特論／栄養・生化学後期特論／特別研究指導I／特別研究指導II／特別研究指導III

主な就職先

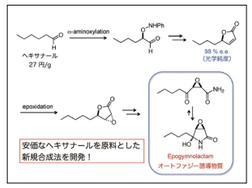
農林水産省／厚生労働省／財務省／人事院／農業・食品産業技術総合研究機構／産業技術総合研究所／公務員（東京都庁／神奈川県庁／千葉県庁／北海道庁／秋田県庁／長野県庁）／教員（東京農業大学、関東学院大学）／アジレント・テクノロジー／大塚薬品工業／キッコーマンソイフーズ／共立製薬／ケンコーマヨネーズ／興和／小林製薬／新日本科学／三栄源エフ・エフ・アイ／サンヨー食品／中外製薬工業／ニチレイフーズ／日清製粉／日本食研ホールディングス／富士フィルム和光純薬／有楽製菓／BMLフード・サイエンス／マルハニチロ／ブルボン／ヤクルト本社／山崎製パン／雪印メグミルク／ロッテなど

研究ピックアップ



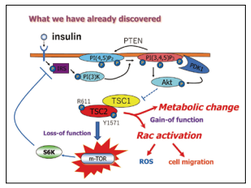
植物の光環境適応能を改良

オオムギ葉緑体内で過剰な光エネルギーを散逸させる特殊な「集光性アンテナ蛋白質」に着目し、このようなタンパク質を利用して、さまざまな不良環境に適応できる新たな植物の開発を目指しています。



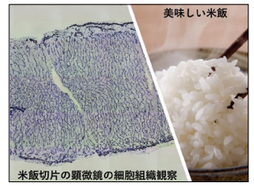
Epogymnolactamの新規合成

安価に入手可能なヘキサナールから出発し、重要中間体ラクトンを経て、オートファジー誘導物質Epogymnolactamの新規合成を達成しました。両鏡像体の合成に適用可能で効率的な合成で、他の有用物質合成にも応用できます。



インスリンシグナルの解明

インスリンシグナルは生体の恒常性維持に必須ですが、その破綻は生活習慣病やガンの発症と深く関わります。そこで、新規シグナル因子や制御する化合物を探索し、このシグナル全体を解明することで人の健康維持に関わる食品成分やメカニズムの提案につながります。



米飯のおいしさの解明

米飯のおいしさは何で決まるのか・日本人の生活の源を徹底的に研究。遺伝子、タンパク質、デンプン、アミノ酸などの違いを分析することで分子の視点で食味形成の原理を解明し、次世代に必要な特性の発見を目指しています。

醸造学専攻

Fermentation Science and Technology

無限に広がる発酵の可能性を拓く

世田谷キャンパス
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1



指導教授・准教授（博士前期・博士後期課程）2024年4月1日予定

- 石川森夫 教授 …… 各種発酵食品の微生物叢と代謝物の相関の評価
- 大西章博 教授 …… 微生物生態系の解析と制御
- 数岡孝幸 教授 …… 効率的な有用酵母の分離法開発と分離株の特性
- 門倉利守 教授 …… 国酒酵母の分類学的研究と醸造学的応用
- 徳岡昌文 教授 …… 麹菌酵素と代謝物に関する遺伝学的研究
- 徳田宏晴 教授 …… 物質生産や環境浄化用バイオリアクターの開発
- 藤本尚志 教授 …… 浄水処理における生物障害
- 前橋健二 教授 …… 発酵食品の官能並びに生体調節機能
- 進藤　斉 准教授 …… 清酒醪の発酵機作に関する研究
- 中山俊一 准教授 …… 発酵性微生物の特性解明と代謝工学

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

醸造の未来を発酵研究で切り拓く

伝統的な醸造・発酵を科学的に捉え、微生物の機能や遺伝的特性の解明、有用株の単離や育種、および醸造物に複雑な味や香りが生みだされるメカニズムの理解に関する研究を行っています。また、優れた醸造物や発酵食品の開発や機能性物質の探索の他、微生物を利用した環境浄化やエネルギー回収など、醸造・発酵を基盤とした新しい製品や技術の開発、産業の創成に挑戦する研究を行っています。これら研究を通じ、醸造技術や発酵食品の科学的探求および次世代の微生物利用産業の発展に寄与する人材の育成を目指しています。

カリキュラム

博士前期課程

応用生物科学研究科共通科目　知的財産管理法／インターンシップ

研究倫理／醸造学概論／応用微生物学特講／プレゼンテーション法／
醸造微生物学特論I／醸造微生物学特論II／微生物工学特論I／微生物工学特論II／
酒類生産科学特論I／酒類生産科学特論II／発酵食品化学特論I／発酵食品化学特論II／
調味食品科学特論I／調味食品科学特論II／醸造環境科学特論I／醸造環境科学特論II／
醸造学特別演習I／醸造学特別演習II／醸造学特別演習III／醸造学特別演習IV／
醸造学特別実験I／醸造学特別実験II／醸造学特別実験III／醸造学特別実験IV

博士後期課程

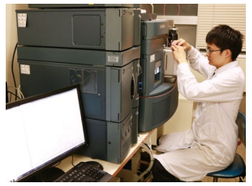
応用生物科学研究科共通科目　知的財産管理法・研究倫理特論／インターンシップ

英語によるプレゼンテーション／醸造微生物学後期特論／微生物工学後期特論／
酒類生産科学後期特論／発酵食品化学後期特論／調味食品科学後期特論／
醸造環境科学後期特論／特別研究指導I／特別研究指導II／特別研究指導III

主な就職先

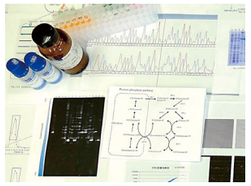
アウトソーシングテクノロジー／池田糖化工業／株式会社伊藤園／MGCフィルシート／
国立研究開発法人科学技術振興機構／公益財団法人埼玉県下水道公社／札幌酒精工業／
生活品質科学研究所／WDB／東色ピグメント／日本たばこ産業株式会社／
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構／マイクロンメモリジャパン／三谷バルブ／
三菱商事ライフサイエンス／八重泉酒造／理科研／柳原料理教室／公務員（秋田県庁）

研究ピックアップ



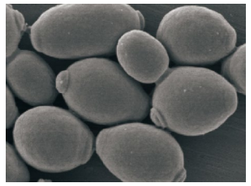
清酒の酒質を左右する麹菌酵素の働きの解明

清酒の香味は、醸造工程で生成される多様な成分により形作られます。特に麹菌酵素の役割は重要と考えられていることから、麹菌の遺伝子解析と質量分析器による詳細な成分分析を利用し、味に関わる成分の生成メカニズムの解明に取り組んでいます。



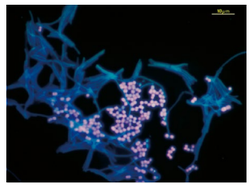
食酢醸造における酢酸菌の生理機能の解明

食酢醸造の主要発酵菌である酢酸菌の生理機能の特徴について細胞レベルでの解明を行っています。ゲノム科学などの最先端の研究技術を駆使し、食酢醸造中に駆動する特徴的な代謝経路や新規の遺伝子発現制御機構を明らかにしています。



アルコール発酵を担う酵母

日本の国酒である清酒・焼酎・泡盛醸造にはそれぞれの国酒酵母が利用され、ワインやビール醸造に用いられる酵母にはない特性を持っています。これらの国酒酵母を研究し、優れた酵母の取得を目指しています。



*Megasphaera elsdenii*の水素発酵能力に関する研究

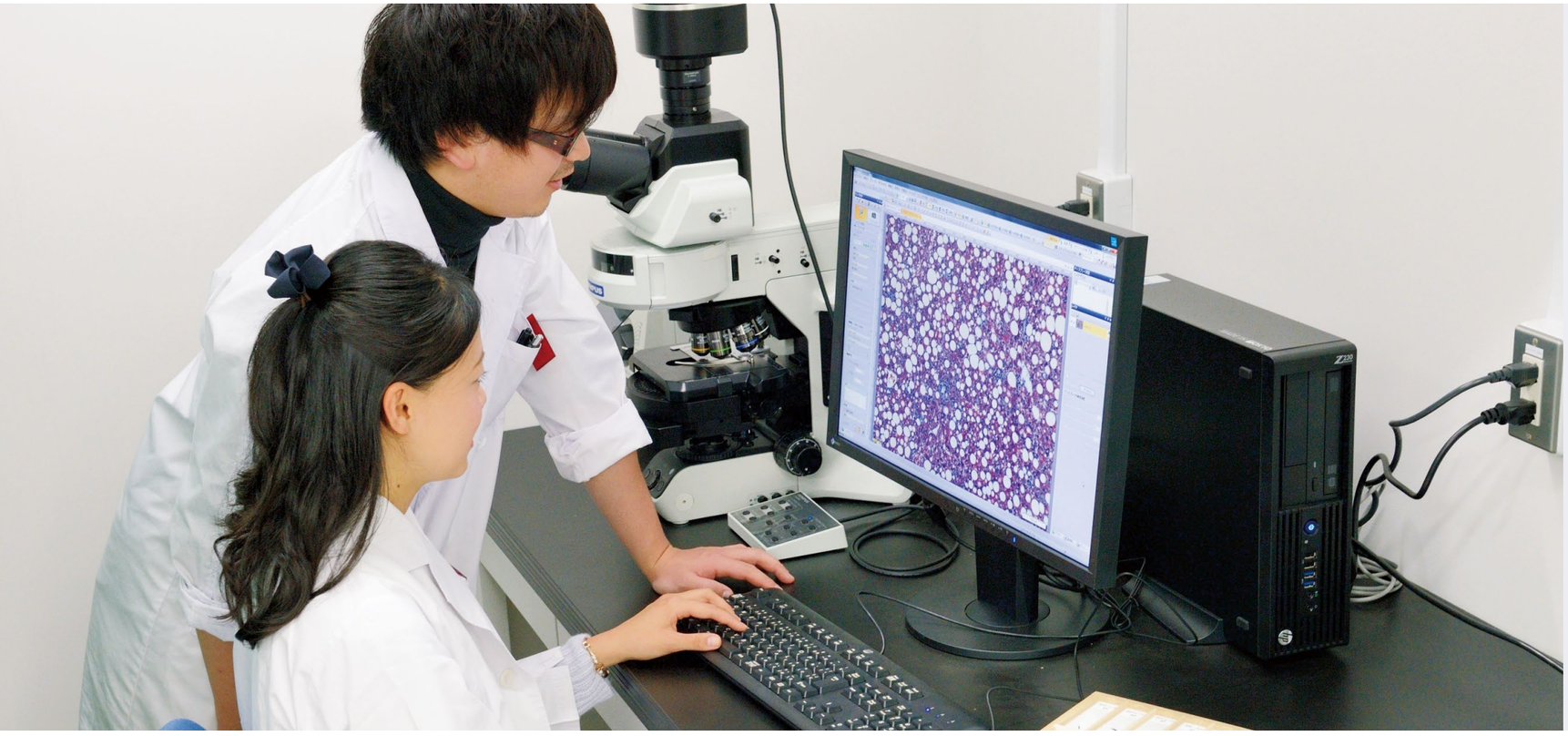
水素は次世代のエネルギー媒体として注目されており、水素発酵法は安価な水素燃料を生産する手法として期待されています。*Megasphaera elsdenii*は雑菌汚染に強いことから、本菌の特性を利用した新たな水素生産システムを開発中です。

食品安全健康学専攻

Nutritional Science and Food
人のための機能的で

Safety
安全・安心な食品を科学する

世田谷キャンパス
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1



指導教授・准教授（博士前期・博士後期課程）2024年4月1日予定

- 阿久澤さゆり 教授 …… 食品の物性制御と口腔内知覚情報に関する研究
- 阿部尚樹 教授 …… 食材等に含有される生理活性物質の生物有機化学的研究
- 飯嶋益巳 教授 …… 食品の安全・品質マーカーの探索とその高感度検出技術の開発
- 岩槻　健 教授 …… 三次元培養系を用いた消化管および味蕾幹細胞の機能解析
- 上原万里子 教授 …… 骨・脂質代謝を制御する植物化学成分とミネラルの生理機能学的研究
- 遠藤明仁 教授 …… 食品微生物及び腸内細菌の安全性及び機能性
- 大石祐一 教授 …… 食品素材の摂食や塗布が皮膚に与える影響
- 小野瀬淳一 教授 …… 食品成分における免疫および生化学的研究
- 高橋信之 教授 …… 食品成分による生活習慣病の予防・改善メカニズムの解明
- 美谷島克宏 教授 …… 食品中の化学物質が生体に及ぼす影響についての毒性病理学的研究

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

安全性と機能性を評価できる専門家を育成する

食品にかかわる行政部門・企業体とその連合組織・教育／研究機関・ジャーナリズム・各種民間団体・市民の多くが、「食の安全・安心」と「食の機能と健康」に対して、より高度な科学的視点で対応できる人材を求めています。食品安全健康学専攻の特徴は、「食品の安全性」と「食品の機能性」の両分野を深く学べることです。「生体分析科学」「リスク評価学」「食品開発学」「生理活性物質学」「生理機能学」「生体環境解析学」を教育研究の軸に、最先端の知識と技術、柔軟性・機動性・問題解決力を身につけた、健康維持のための食品の安全性と機能性を同時に評価できるスペシャリストを育成します。

カリキュラム

博士前期課程
応用生物科学研究科共通科目　知的財産管理法／インターンシップ

英語論文講読／オミクス／研究倫理／プレゼンテーション法／
フードモレキュラーバイオロジー／フードバイオケミストリー／食品安全科学特論／
生体分析科学特論／リスク評価学特論／食品開発学特論／食品機能科学特論／
生理活性物質学特論／生理機能学特論／生体環境解析学特論／食品安全健康学特別演習I／
食品安全健康学特別演習II／食品安全健康学特別演習III／食品安全健康学特別演習IV／
食品安全健康学特別実験I／食品安全健康学特別実験II／食品安全健康学特別実験III／
食品安全健康学特別実験IV

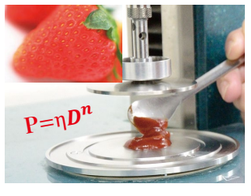
博士後期課程
応用生物科学研究科共通科目　知的財産管理法・研究倫理特論／インターンシップ

英語によるプレゼンテーション／生体分析科学後期特論／リスク評価学後期特論／
食品開発学後期特論／生理活性物質学後期特論／生理機能学後期特論／
生体環境解析学後期特論／特別研究指導I／特別研究指導II／特別研究指導III

主な就職先

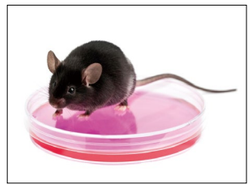
アドバンテック／井村屋／オカモト／カルビー／キリンホールディングス／
コーケンフード&フレーバー／一般財団法人食品環境検査協会／叙々苑／スタッフサービス／
テクノプロ テクノプロ・R&D社／日油／日本データリンク／フクダ電子／
公務員（東京都庁／横浜市役所）

研究ピックアップ



食品素材の遺伝学的・物性学的解析を基盤とした食品開発

食品素材の成分を調べ、加工・製造プロセスを物理学的な視点で解析することで、新しい食品の設計が可能になります。安全においしく食べるために、食品素材から製品、私たちの感性まで総合的な解析を目指しています。



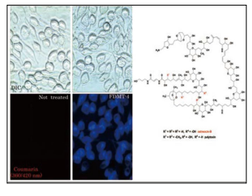
食品成分の代謝異常改善作用の解析

骨粗鬆症や肥満など生活習慣病の原因となる代謝異常を改善する食品成分の生理機能のメカニズムについて、細胞レベルで得られた結果と比較しながら、様々な疾患モデル動物を使って動物個体レベルで検討します。



味蕾の再生と機能を紐解く

舌には、うま味、甘味、苦味、塩味、酸味を感じる味蕾が存在しますが、これまで味蕾の細胞を培養する事ができませんでした。我々は世界に先駆けて味蕾培養法を構築し、その再生能や機能について解析しています。



機能性物質の精密構造解析

生命活動において微量で生体機能を示す低分子化合物「生理活性物質」の詳細な化学構造を明らかにすることで、生体内での標的分子の同定・細胞内シグナル伝達経路の解析から、その生体機能制御機構を明らかにします。

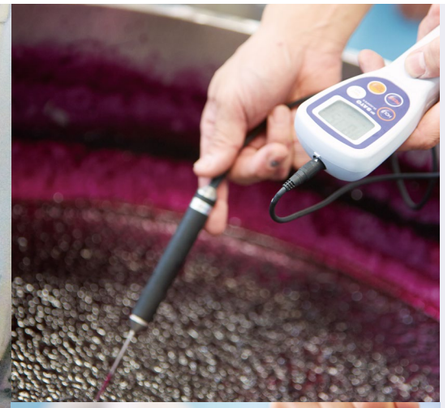
食品栄養学専攻

Food and Nutritional Science

ヒトが健やかに生きるための食　　を科学する

世田谷キャンパス
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1







指導教授・准教授（博士前期・博士後期課程）2024年4月1日予定

- ■勝亦陽一 教授 …… スポーツ選手のトレーニング方法開発
- ■小西良子 教授 …… 食品汚染物質にデトックス効果を有する食品成分の研究
- ■鈴野弘子 教授 …… 食品の調理による成分および物理的変化に関する研究
- ■髙田和子 教授 …… 身体活動とエネルギー、主要栄養素の代謝
- ■高橋公咲 教授 …… 食品中の生理活性物質の分析および作用機構に関する研究
- ■服部一夫 教授 …… 生活習慣病の予防・改善に寄与する食品および腸管幹細胞に影響を及ぼす食品に関する研究
- ■日田安寿美 教授 …… 健康増進と生活習慣病予防の栄養疫学、スポーツ栄養学
- ■福山直人 教授 …… 機能性食品やAIを用いた疾患予防や治療へのアプローチ
- ■松﨑広志 教授 …… ミネラルの過不足摂取時におけるミネラル代謝調節に関する栄養生理学的研究
- ■勝間田真一 准教授 …… 骨代謝に及ぼす食事中ミネラルレベルの影響、生活習慣病に関する栄養生理学的研究
- ■多田由紀 准教授 …… 月経周期と食事の観点からみた女性の健康管理、子どもの生活習慣と栄養

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

研究・産業発展を担うリーダーを育てる

食品栄養学専攻では、ヒトの健康維持・増進および疾病予防・改善に向けた食品学および栄養学領域を統合した食品栄養学での高度で専門的な研究を行っています。これらの研究を通して、食品栄養学に関連する広範かつ確固たる専門的知識・技術と研究能力を有し、研究・行政・教育・医療分野などで指導的立場を担うことができる人材を育成します。

カリキュラム

博士前期課程
応用生物科学研究科共通科目　知的財産管理法／インターンシップ

研究倫理／ニュートリゲノミクス／栄養統計学／論文英語／プレゼンテーション法／
食品栄養学特論／食品生化学特論／フードシステム管理学特論／調理科学特論／
食品機能利用学特論／人間栄養学特論／栄養生理学特論／
保健栄養学特論／臨床栄養学特論／栄養機能学特論／食品栄養学特別演習Ⅰ／
食品栄養学特別演習Ⅱ／食品栄養学特別演習Ⅲ／食品栄養学特別演習Ⅳ／
食品栄養学特別実験Ⅰ／食品栄養学特別実験Ⅱ／食品栄養学特別実験Ⅲ／
食品栄養学特別実験Ⅳ

博士後期課程
応用生物科学研究科共通科目　知的財産管理法・研究倫理特論／インターンシップ

研究計画策定法／食品生化学後期特論／フードシステム管理学後期特論／
調理科学後期特論／栄養生理学後期特論／保健栄養学後期特論／臨床栄養学後期特論／
特別研究指導Ⅰ／特別研究指導Ⅱ／特別研究指導Ⅲ

主な就職先

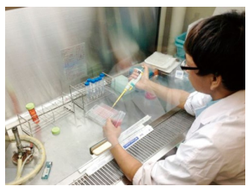
相馬商事／医療法人社団桐和会／富士フィルム和光純薬／シミックファーマサイエンス
公務員（千葉県庁／東京都庁／相模原市）／国立研究開発法人国立がん研究センター
東京都健康長寿医療センター／エームサービス（ナショナルトレーニングセンター）

研究ピックアップ



母乳中の脂肪酸組成

母乳はDHAやEPAなど多種類の脂肪酸を豊富に含んでおり、脳などの正常な発育に重要な役割を果たしています。乳児の成長に合わせて変化している脂肪酸組成をガスクロマトグラフィーで解析し、母乳の生理機能を解明します。



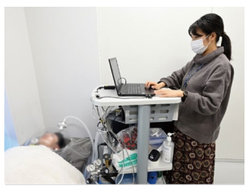
抗糖尿病作用を有する食品に関する研究

3T3-L1前駆脂肪細胞を用いて、抗糖尿病作用の指標となる脂肪細胞の分化促進ならびにアディポネクチン産生を誘導する食品を探索します。さらに、細胞や動物を用いて、食品の抗糖尿病作用の実証およびメカニズムを解析します。



栄養不良の二重負荷の解決に向けた持続可能な食生活提案

ケニアには低栄養と過栄養の課題が同時に存在し、この解決に向けた栄養改善に取り組んでいる。食事評価のアプリを開発し、活用しながら健康増進のための食育を通じて健康意識を高め、健康的な行動を促す取り組みを進めている。



スポーツ選手への栄養教育の科学的根拠を求める

スポーツ選手を対象に食事や生活習慣調査を行い、課題抽出し、解決策を提案している。人代謝研究として、ボランティア学生に異なる食事条件の際の運動負荷前後で、呼気成分や血液、尿を分析し、条件の違いが及ぼす影響を検討している。

バイオサイエンス専攻

Bioscience

先端生命科学で人類　　の未来を支える

世田谷キャンパス
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1



指導教授・准教授（博士前期・博士後期課程）2024年4月1日予定

- 朝井　計 教授 …… 細菌の生存戦略の解析と異種ゲノム解析用宿主細菌の開発
- 小川英彦 教授 …… 哺乳動物の細胞分化機構の解明
- 尾畑やよい 教授 …… 哺乳類生殖細胞の発生
- 坂田洋一 教授 …… 植物ホルモンシグナル伝達機構の進化プロセスに関する研究
- 太治輝昭 教授 …… 植物のストレス耐性におけるナチュラルバリエーションの遺伝学的解明
- 千葉櫻 拓 教授 …… 哺乳動物細胞の増殖制御機構
- 中澤敬信 教授 …… 脳高次機能および脳疾患に関する分子基盤研究
- 中村進一 教授 …… 植物体内の重金属元素動態の解析と作物育種への応用
- 矢嶋俊介 教授 …… 細胞機能の構造生物学およびケミカルバイオロジー解析

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

生命現象を生物学的手法で解明

分子生物学を基盤とした充実した講義と演習・実験科目により、生命現象を遺伝子・タンパク質・細胞レベルで解析しています。このことは必然的に先端生命科学の理解と、手法の会得につながり、自ら創意工夫する力も養います。さらにこうした知識を今日の重要な社会問題の解決のために応用できる柔軟性、伝統を活かしつつ新時代に対応・連携できる力を身につけます。研究者としての科学的基礎力を養成するだけではなく、食料、環境、医薬など農林水産系、理化学系各分野の技術者としても活躍できる人材を育成しています。

カリキュラム

博士前期課程

生命科学研究科共通科目　知的財産管理法／インターンシップ

研究倫理／論文英語Ⅰ／論文英語Ⅱ／論文英語Ⅲ／論文英語Ⅳ／プレゼンテーション法／分子細胞生物学／生命情報工学／遺伝育種学／細胞分子機能科学特論Ⅰ／細胞分子機能科学特論Ⅱ／植物生命科学特論Ⅰ／植物生命科学特論Ⅱ／動物生命科学特論Ⅰ／動物生命科学特論Ⅱ／バイオサイエンス特別演習Ⅰ／バイオサイエンス特別演習Ⅱ／バイオサイエンス特別演習Ⅲ／バイオサイエンス特別演習Ⅳ／バイオサイエンス特別実験Ⅰ／バイオサイエンス特別実験Ⅱ／バイオサイエンス特別実験Ⅲ／バイオサイエンス特別実験Ⅳ

博士後期課程

生命科学研究科共通科目　知的財産管理法・研究倫理特論／インターンシップ

英語論文作成法／細胞分子機能科学後期特論／動物生命後期特論／植物生命後期特論／特別研究指導Ⅰ／特別研究指導Ⅱ／特別研究指導Ⅲ

主な就職先

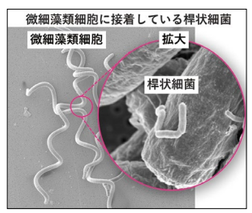
アジレント・テクノロジー／出光興産／栄研化学／大塚製薬／オリンパスマーケティング／関東化学／キユーピー／共立製薬／湖池屋／小岩井乳業／国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構／コスモ・バイオ／東和薬品／島津製作所／J&T環境／住友ファーマフード&ケミカル／全国農業協同組合連合会（JA全農）／大伸化学／WDB／中外製薬工業／日研フード／日東薬品工業／ニチレイフーズ／日本農薬／日本ピュアフード／P&Gグループ／フィリップスジャパン富士フイルムビジネスエキスパート／富士フイルム和光純薬／ブルボン／ポッカサッポロフード&ビバレッジ／マルホ／丸美屋食品工業／Mizkan／大和化学工業

研究ピックアップ



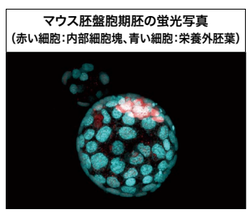
新しい作物を作りだす

生理活性ペプチドのグルタチオンが植物体内の重金属元素の動きをコントロールしていることを明らかにしました。この現象に関連する遺伝子の機能を制御して、付加価値を持つ作物を作り出すことを目指しています。



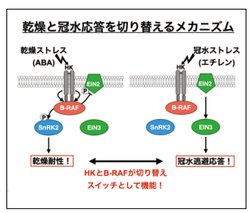
微生物の相互作用の解析

遺伝子組換えが困難な微細藻類とそこに共存する細菌との相互作用を、最先端の合成生物学的手法によってゲノムレベルで解析し、微細藻類の細胞機能をフルに引き出すとともに拡張し、活用することを目指しています。



着床のメカニズム解明

哺乳類の個体発生において、着床は重要なステップです。着床過程において、胚の遺伝子発現が急激に変化することを明らかにしました。これらの変化の要因が明らかとなれば、生殖補助医療への応用が期待できます。



植物の環境センシング

植物が水利用環境を統合的に感知する新たな遺伝子を発見。この遺伝子は植物ホルモンのシグナルを制御する役割を持ちます。本研究は乾燥と洪水どちらにも対応し、回復力を高めた作物の育種への応用が期待されます。

分子生命化学専攻

Chemistry for Life Sciences and Agriculture

原子・分子から生命・生態系を化学する

世田谷キャンパス
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1



指導教授・准教授（博士前期・博士後期課程）2024年4月1日予定

- 石井大輔 教授 …… バイオプラスチックの高付加価値材料化
- 石神　健 教授 …… 天然有機化合物の全合成と生物機能の解明
- 浦井　誠 教授 …… 生物間相互作用の分子機構の解明
- 冨澤元博 教授 …… ケミカルバイオロジー手法によるリガンド結合表面の解析、タンパク質構造を基盤としたリガンドの分子設計
- 橋本貴美子 教授 …… 生物現象に関わる有機化合物の単離、構造、合成
- 矢島　新 教授 …… 微生物制御物質の合成研究
- 勝田　亮 准教授 …… 生命現象解明のための分子構築法の開発

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

農学・生命科学における様々な課題に対応可能な人材を養成

分子生命化学専攻は、農学・生命科学領域における基礎として、日常空間では最小単位となる分子・原子を基盤に据えた講義と演習・実験科目を開講します。その化学的知識に基づいた展開可能な基礎力を身に付けることで物質が関わる農学・生命科学領域における様々な課題に対応可能な人材を養成します。特に現代社会における医薬・農薬を始めとする化学系の業種においては研究開発人材の確保が他の業種に比べて課題とされていることから、その社会的ニーズに応える高い研究力を備えた人材を育成していきます。

カリキュラム

博士前期課程

生命科学研究科共通科目　知的財産管理法／インターンシップ

研究倫理／英語論文講読I／英語論文講読II／プレゼンテーション法I／プレゼンテーション法II／先端有機化学／分子機能解析学／分子設計学特論／有機合成化学特論／ケミカルバイオロジー特論／分析化学特論／生命高分子化学特論／分子生命化学特別演習I／分子生命化学特別演習II／分子生命化学特別演習III／分子生命化学特別演習IV／分子生命化学特別実験I／分子生命化学特別実験II／分子生命化学特別実験III／分子生命化学特別実験IV

博士後期課程

生命科学研究科共通科目　知的財産管理法・研究倫理特論／インターンシップ

英語論文作成法／先端有機化学後期特論／ 分子機能解析学後期特論／特別研究指導I／ 特別研究指導II／特別研究指導III

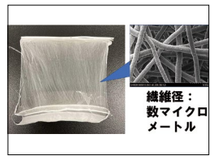
主な就職先

アビームコンサルティング株式会社/イーピーエス株式会社/石原産業株式会社/エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル株式会社/株式会社大塚商会/大塚製薬株式会社/沖電気工業株式会社/神奈川県庁/協同油脂株式会社/協友アグリ株式会社/サントリーホールディングス株式会社/株式会社新日本科学/独立行政法人製品評価技術基盤機構/曽田香料株式会社/テックプロジェクトサービス株式会社/株式会社テクノプロ　テクノプロ・R&D社/東京応化工業株式会社/東洋合成工業株式会社/日清食品株式会社/日本高純度化学株式会社/日本精化株式会社/日本製紙株式会社/株式会社ネットラーニングホールディングス/株式会社ファンケル/株式会社プレコフーズ/株式会社松尾製作所/株式会社マツモト交商/三菱総研DCS株式会社/ラサ工業株式会社

研究ピックアップ

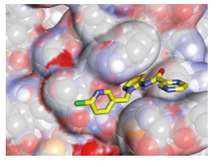
バイオポリマーの医用材料化

生体適合性・生体吸収性を持つバイオポリエステルを用いて、マイクロメートルサイズの極細繊維からなるマイクロファイバーマットの作製に成功しました。感染予防マスクや細胞培養基材への応用を進めています。



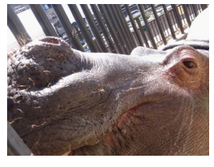
標的タンパク質の形を調べ農薬・動物薬の開発に貢献

薬は標的タンパク質に作用して薬効を顕します。薬が付く場所の形を調べ、適した分子を設計し、薬効と安全性に優れた農薬・動物薬候補化合物を創出。



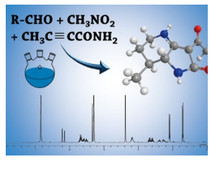
カバの汗は、なぜ赤いのか その物質の正体を解明

カバの赤い汗を研究しました。赤い物質は皮膚上でUV を吸収し、重合することで体を覆い、強い日差しから身を守る仕組みであることが分かりました。



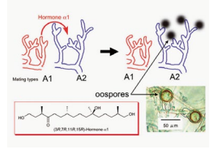
抗がん作用と抗菌活性を示す環状化合物を合成

アルデヒドとニトロ化合物を原料に、窒素を含む環状化合物を効率的に合成する手法を開発。抗がん作用や抗菌活性を示し、医薬品開発が期待できます。



病原性微生物が卵胞子をつくり出すトリガーを発見

病原性微生物が交配し、卵胞子を形成する仕組みを物質レベルで解明。化学合成したその物質を使い、卵胞子をつくるメカニズムを止める方法を研究中。

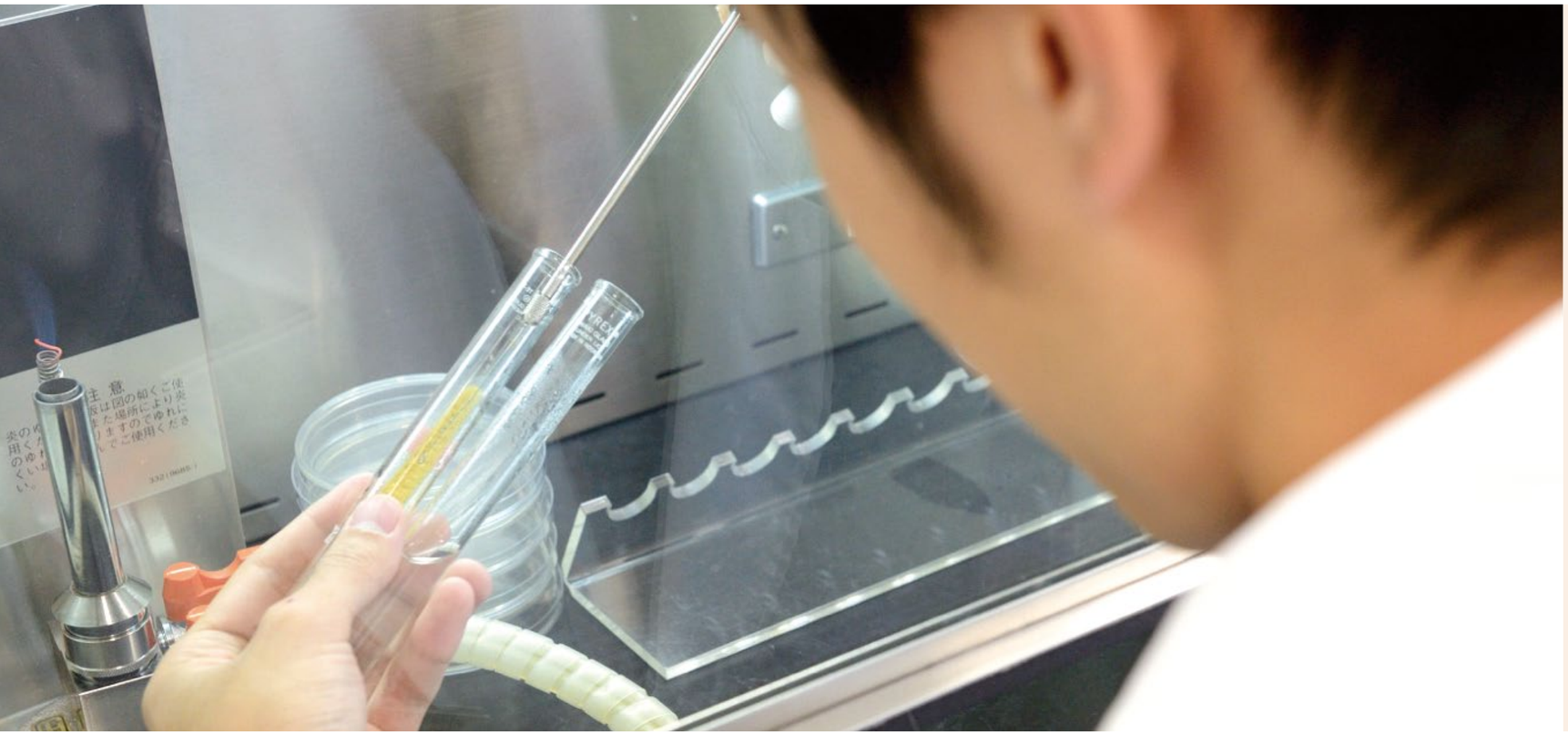


分子微生物学専攻

Molecular Microbiology

微生物の新たな世界へ　突き進む

世田谷キャンパス
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1



指導教授（博士前期・博士後期課程）2024年4月1日予定

- ■内野昌孝 教授 …… 微生物の食品製造および安全性への関与ならびに応用に関する研究
- ■笠原浩司 教授 …… 真核細胞における転写制御機構
- ■川﨑信治 教授 …… 新規生物の探索と有用な生命代謝の発見および有効利用
- ■齋藤宏昌 教授 …… 植物病原菌、ウイルスの植物への感染および病害抵抗性誘導機構の解明
- ■鈴木智典 教授 …… 微生物間の分子相互作用に関する研究
- ■田中尚人 教授 …… ゲノム情報を利用した微生物資源の開発および進化系統解析
- ■戸塚　護 教授※ …… 動物共生微生物と腸管免疫系との相互作用

※博士前期課程のみ担当

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

問題の発見、それを解決できる発想、技術を有する人材を養成

分子微生物学専攻では、微生物学に関する基礎知識に加え、今後発展の一途を遂げる分子微生物学の専門知識と、その研究の実施に必要となる先端機器の取扱技術を習得し、農・食品・環境・医薬の分野等において未解決な問題の発見と、それを解決できる発想と技術を有する人材を養成します。
また、生命科学分野の広い知識に加え、目に見えないミクロの生物圏における有益あるいは有害な生物作用の理解を基礎として、微生物の安全な取扱いや微生物の機能を考慮した利用方法を習得させることを教育研究上の目的としています。

カリキュラム

博士前期課程
生命科学研究科共通科目　知的財産管理法／インターンシップ

研究倫理／論文英語Ⅰ／論文英語Ⅱ／論文英語Ⅲ／論文英語Ⅳ／
プレゼンテーション法／微生物利用学／微生物生命機能学／生命機器分析化学／
微生物機能科学特論Ⅰ／微生物機能科学特論Ⅱ／微生物共生作用学特論Ⅰ／
微生物共生作用学特論Ⅱ／分子微生物特別演習Ⅰ／分子微生物特別演習Ⅱ／
分子微生物特別演習Ⅲ／分子微生物特別演習Ⅳ／分子微生物特別実験Ⅰ／
分子微生物特別実験Ⅱ／分子微生物特別実験Ⅲ／分子微生物特別実験Ⅳ

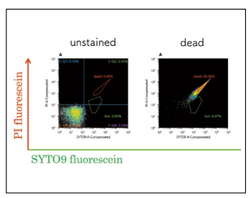
博士後期課程
生命科学研究科共通科目　知的財産管理法・研究倫理特論／インターンシップ

英語論文作成法／微生物機能科学後期特論／ 微生物共生作用学後期特論／
特別研究指導Ⅰ／ 特別研究指導Ⅱ／特別研究指導Ⅲ

主な就職先

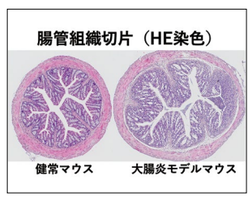
日本新薬株式会社/株式会社ポーラ/北興化学工業株式会社/株式会社伊藤園/
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構/一般財団法人材料科学技術振興財団/
株式会社江東微生物研究所/株式会社サカタのタネ/富士ソフト株式会社/
農林水産省　植物防疫所/独立行政法人農林水産消費安全技術センター

研究ピックアップ



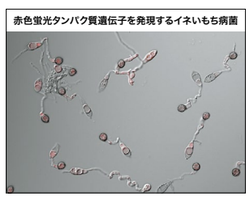
嫌気性菌の生理特性

嫌気性菌は、無酸素環境で環境保全や宿主の健康状態の維持に大きく貢献しています。私たちはビフィズス菌やクロストリジウムを用いて、培養条件によって変化する細胞形態や生理特性を分子レベルの視点から調査しています。



病態モデルに対する乳酸菌の作用

乳酸菌など体に良い働きをするプロバイオティクスが注目されています。乳酸菌をアレルギーや大腸炎などの病態モデル動物に投与し、これら疾病に対する病態改善効果や腸内細菌叢への影響について調査しています。



イネいもち病菌の病原性分泌タンパク質遺伝子を発見

イネいもち病菌の宿主植物への感染に必要な病原性分泌タンパク質遺伝子を発見しました。この遺伝子産物の病原性機能を調べることで、その機能を阻害する病害防除薬剤の開発や耐病性作物の作出が今後期待されます。



微生物の能力を高めておいしいチョコレート作ろう

チョコレートの原料はカカオであり、製造工程に複数の微生物が関与します。これらの菌叢解析を次世代シークエンサーで代謝物を質量分析計で網羅的に解析し、品質の向上を目指しています（海外と共同研究）。

林学専攻

Forest Science

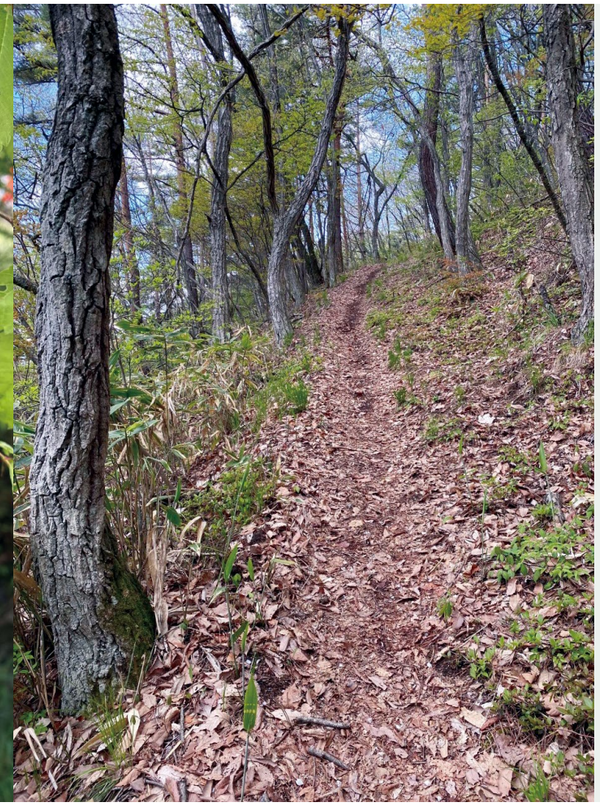
森林と人間とを結ぶ、新時代の林学

世田谷キャンパス

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1







指導教授（博士前期・博士後期課程）2024年4月1日予定

- 上原　巌 教授 …… 森林の各更新技術および森林療法に関する研究
- 江口文陽 教授 …… きのこの新規生産技術開発と機能性解析
- 大林宏也 教授 …… 切削加工した木材の微視的観察
- 佐藤孝吉 教授 …… 民有林を中心とした森林経営の現状分析
- 関岡東生 教授 …… わが国における森林政策・林業経済・森林教育に関する研究
- 橘　隆一 教授 …… 緑化工技術の開発・応用と緑化地の機能評価
- 矢部和弘 教授 …… 森林土木、森林測量、林業労働、スマート林業
- 山﨑晃司 教授 …… 大・中型哺乳類の行動生態研究とその管理と保護

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

問題発見・問題解決の能力を養う

森林は、持続的な生活を可能にするための環境保全機能、木材をはじめ多様な林産物を生産する生物生産機能と、地域の文化を創出する文化・教育的機能を有しています。本専攻は、森林の保全・育成・活用と、林産物の高度有効利用を図り、自然循環型の社会形成と人類の持続的発展に貢献できる人材の養成を目的としています。森林環境保全、森林資源生産、森林資源利用、森林文化情報の4つの専修を設置し、専門領域における高度な知識と理解力、実践的な問題発見・解決能力を身につけた森と木のプロフェッショナルを養成します。

カリキュラム

博士前期課程

地域環境科学研究科共通科目　知的財産管理法／インターンシップ

研究倫理特講／論文英語／科学英語／プレゼンテーション法／実験・調査計画法／論文作成法／フィールド調査／森林生態学特講／治山緑化工学特講／造林学特講／森林療法学特講／林業工学特講／木材工学特講／林産化学特講／林政学特講／森林経営学特講／森林環境保全学特論／森林資源生産学特論／森林資源利用学特論／森林文化情報学特論／林学特別演習Ⅰ／林学特別演習Ⅱ／林学特別演習Ⅲ／林学特別演習Ⅳ／林学特別実験Ⅰ／林学特別実験Ⅱ／林学特別実験Ⅲ／林学特別実験Ⅳ

博士後期課程

地域環境科学研究科共通科目　研究倫理後期特講／インターンシップ

上級実験・調査計画法／森林環境保全学後期特論／森林資源生産学後期特論／森林資源利用学後期特論／森林文化情報学後期特論／特別研究指導Ⅰ／特別研究指導Ⅱ／特別研究指導Ⅲ

主な就職先

大峰堂薬品工業／テクノプロ テクノプロ・R&D社／東浦カリモク／海山林友／公務員（林野庁／長野県庁／茅ヶ崎市役所）／高等学校教員／博士後期課程進学／自営／教員（熊本県教育委員会）／公務員（林野庁／神奈川県庁）／グリーンエルム

研究ピックアップ



微細藻類による表面侵食防止工法の応用

自然災害で生じた裸地斜面や開発行為に伴う法面の自然植生技術に関連して，微細藻類による早期被覆による表面侵食防止効果の向上の観点から，微細藻類およびコケ植物等による被覆の特性，これらの技術の現地導入，その後の在来植生の導入技術を追究しています。



きのこを科学する

私たちの身近な街や森の中で発生するきのこの生理生態学的研究、有用育種株の作出、栽培技術開発および医薬品や機能性食品にきのこがなり得るのかを林産化学の基礎と応用技術を駆使して科学的に解明します。



薬用植物の挿し木の研究

現在、薬用の樹木はその需要と重要性を高めています。薬用樹木の挿し木による簡易増殖法を研究し、その手法を確立することにより、山村における薬用資源の活用と収益性を高めることを目指しています。



森林文化を探求する

森林を取り巻く自然条件や社会条件によって、森林文化は特徴づけられる。森林文化の比較検討を行うことによって、それぞれの時代や地域における森林と人間との共生パターンが見出され、新しい視点への探求へと研究が展開します。

農業工学専攻

Agricultural Engineering

農業・農村・食料問題を革新的な工学　　技術で究める

世田谷キャンパス
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1







指導教授・准教授（博士前期・博士後期課程）2024年4月1日予定

- 岡澤　宏 教授 …… 水文循環と物質循環(N,P)を考慮した流域環境モデルの開発
- 川名　太 教授 …… 舗装の構造解析に関する研究
- 佐々木　豊 教授 …… 農業情報とバイオロボティクスのためのシステム開発
- 島田沢彦 教授 …… 衛星画像データ・GISを用いた環境モニタリング
- 鈴木伸治 教授 …… 気候変動が熱帯乾燥地および寒冷地農地の熱・水環境に及ぼす影響
- 中村貴彦 教授 …… 農村生態系における資源循環と物質移動に関する研究
- 三原真智人 教授 …… 土壌・水環境の修復保全と地域資源の持続的利用
- 村松良樹 教授 …… 農産物の加工流通過程における輸送現象に関する研究
- 渡邉文雄 教授 …… 乾燥・半乾燥地における水の有効利用法

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導(准)教授に事前に相談してください。

4専修で多様な研究をグローバルに取り組む

農業工学専攻の理念は、環境に配慮した地域資源の活用と循環型社会の構築であり、これを可能にする技術開発・問題解決と学術的な研究を両立できる人材の育成を目標としています。水と土地を資源としてとらえ、有効な利用計画を研究する「地域資源利用学」、生物の生産環境計画を研究する「生産環境情報・計画学」、環境保全を考慮した生産基盤施設の設計・評価・維持管理を研究する「施設工学」、農作業技術と農産物加工流通技術、農業情報技術を研究する「農業生産システム工学」の4専修を設置し、教育・研究を展開しています。

カリキュラム

博士前期課程

地域環境科学研究科共通科目　知的財産管理法／インターンシップ

研究倫理特講／プレゼンテーション法／フィールド調査／論文作成法／水利施設工学特講／海外農業開発学特講／土壌物理学特講／農村計画学特講／農地環境学特講／土木材料学特講／バイオロボティクス特講／農産加工流通工学特講／広域環境情報学特講／地域資源利用学特論I／地域資源利用学特論II／生産環境情報・計画学特論I／生産環境情報・計画学特論II／施設工学特論I／施設工学特論II／農業生産システム工学特論I／農業生産システム工学特論II／農業工学特別演習I／農業工学特別演習II／農業工学特別演習III／農業工学特別演習IV／農業工学特別実験I／農業工学特別実験II／農業工学特別実験III／農業工学特別実験IV

博士後期課程

地域環境科学研究科共通科目　研究倫理後期特講／インターンシップ

英語論文作成法／地域資源利用工学特論／農村環境工学特論／広域環境情報学特論／地水環境工学特論／社会基盤工学特論／水利施設工学特論／バイオロボティクス特論／農産加工流通工学特論／特別研究指導I／特別研究指導II／特別研究指導III

主な就職先

CAC Holdings／大成建設／データベース／日本工営／パスコ／阪和興業東京本社／キアラ／サタケ／自営／NTCインターナショナル

研究ピックアップ



マングローブ林倒壊の原因

農作物など植物の生育に土壌は欠かせません。農地土壌の理化学的性質の測定技術を利用して、マングローブ林が倒壊する原因には、淡水と海水の水の流れや土粒子の力学的性質が関わっていることを明らかにしています。



山岳植生のUAVモニタリング

ドローン(UAV)に人間の眼の認知範囲を超えた波長域を感知可能なセンサーを搭載し、事物の観測を行う研究を行っています。丹沢山で問題になっているブナ枯れを広範囲に検知するための手法開発を行っています(※飛行許可を得ています)。



気候変動と農業流域の水文循環

流域規模で降雨時に農地から流出する水の挙動を把握することは災害リスクを評価する上で重要な情報になります。ここでは、北海道の農業流域河川を対象に、水文モデルによる河川流量予測に取り組んでいます。



国外の食品加工・農村開発

カンボジアにおいて、持続可能な農村開発を目標に、現地の農産物を使った食品加工に関するプロジェクト研究に取り組んでいます。現地の農家の収入増加や女性のエンパワメント向上につながることが期待されています。

造園学専攻

Landscape Architecture

自然と共生する都市・地域をつくる

世田谷キャンパス

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1



指導教授・准教授（博士前期・博士後期課程）2024年4月1日予定

- 荒井　歩 教授 …… 文化的景観、再生可能エネルギー施設導入地における景観マネジメント手法の構築
- 粟野　隆 教授 …… 伝承造園技術の解明にもとづく文化財庭園保存修復工法の研究、日本・東アジア庭園史の研究
- 國井洋一 教授 …… 空間情報技術による3次元計測に関する研究
- 斎藤　馨 教授 …… 風景認識言論、庭園技法とサイバースペース
- 鈴木貢次郎 教授 …… 造園植物の生活史と利用に関する研究
- 服部　勉 教授 …… 日本庭園を中心とした造園空間における景観構成の解析とその管理運営の構築
- 水庭千鶴子 教授 …… 植物と環境の相互作用
緑化技術と植栽基盤に関する研究

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

社会基盤となる「みどり」の創出と維持、人との共生技術

本学の造園学専攻は、修士、博士の学位を授与する造園学の総合的教育機関であり、わが国のみならず、世界的にも重要な役割を担っています。「造園計画・設計学」、「造園植物・植栽学」、「造園施工・施設材料学」の3専修分野と、その関連領域の学理と知識・技術を身につけます。「人と自然との共生」を目指し、①庭園・公園から都市、自然地域までの環境計画・デザイン思想と技術力、②造園技術の基礎となる植物などの生物資源の基礎研究から応用、造園施工技術に関する知識と応用能力の深化および総合化を、ソフトとハードの両面から追究しています。

カリキュラム

博士前期課程

地域環境科学研究科共通科目　知的財産管理法／インターンシップ

研究倫理特講／論文英語／造園調査法詳論／造園調査法詳論演習／日本庭園詳論／観光計画詳論／ランドスケープマネージメント詳論／ランドスケープデザイン詳論／樹芸詳論／芝生詳論／ランドスケープ空間情報詳論／造園計画・設計学特論／造園植物・植栽学特論／造園施設材料・施工学特論／造園学特別演習I／造園学特別演習II／造園学特別演習III／造園学特別演習IV

博士後期課程

地域環境科学研究科共通科目　研究倫理後期特講／インターンシップ

論文英語作成／造園計画学後期特論／造園設計学後期特論／造園植物学後期特論／造園植栽学後期特論／造園施設材料学後期特論／造園施工学後期特論／特別研究指導I／特別研究指導II／特別研究指導III

主な就職先

日本工営株式会社／株式会社NIPPO／株式会社昭和／株式会社アーバンデザインコンサルタント／雪印種苗株式会社／株式会社ブレック研究所／株式会社ランドフローラ／神戸市役所

研究ピックアップ



グリーンインフラ研究

自然の力、機能を活かして都市・地域づくりにつなげるグリーンインフラ研究を行なっています。横浜市内や世田谷区内で自治体と連携しながら、都市内の小流域スケールで土地被覆や利用形態と雨水流出抑制の関係を分析しています。



樹木が生育する土壌条件

都市の街路樹や公園など、劣悪な土壌条件でも植物は生育しています。健全な生育を望むための土壌の化学性（窒素分やpH等）と樹木の生育との関係について探求しています。



庭園の築造過程、意匠・技法に関する考古学的検証

時代の変遷にともなって改作された庭園を、地上の残存部分のみならず、発掘調査によって検出された地下遺構の両面から調べることにより、庭園の時期変遷、意匠・技法、施工方法を精緻に探究します。この成果は庭園の保存修復に資する基礎資料にもなります。



ワサビ産地の文化的景観

文化的景観とは人間と生業との関係の眺めです。日本国内の近世から続くワサビ産地の特徴を、産地発祥の経緯と地形的特性から分析しました。また栽培工程からワサビ栽培に欠かせない景観構成要素の抽出を試みています。

地域創成科学専攻

Rural Science

人物を地域に還す

世田谷キャンパス

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1



指導教授・准教授（博士前期・博士後期課程）2024年4月1日予定

- 入江彰昭 教授 …… 都市農村計画とグリーンインフラの地域デザイン
- 亀山慶晃 教授 …… 植物個体群の維持機構と遺伝子流動に関する集団生物学的研究
- 武生雅明 教授 …… 生物の生活史と種間相互作用を考慮した生態系保全手法
- 竹内将俊 教授 …… 野生動物の資源・生息環境選択に関する研究
- 竹内　康 教授 …… 地域の生活基盤施設の維持管理法
- 武田晃治 教授 …… 生物の色に着目した環境科学教材の開発及びアメリカザリガニの有用資源化に関する研究
- 藤川智紀 教授 …… 農村及び都市における農地保全の技術
- 本田尚正 教授 …… 自然災害に対する地域防災機能の評価と強化に関する研究
- 町田怜子 教授 …… 自然公園、世界遺産、世界農業遺産等の保護地域における持続的観光

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

地域づくりを担うリーダーシップを備えた人材の育成

地域創成科学専攻では、生物文化多様性や土地・社会資本の保全に配慮した持続可能な地域の創成を理念とし、保全生態学、地域環境保全学、地域環境工学および地域デザイン学を基軸とした実践的な教育研究を行います。
地域の自然と社会の再生に関する調査・評価手法などの高度な知識と技術の修得と論理的・多面的な思考ができる創造的な研究能力の養成を通じて、地域づくりを担うリーダーシップを備えた人材を育成します。

カリキュラム

博士前期課程

地域環境科学研究科共通科目　知的財産管理法／インターンシップ

研究倫理特講／論文英語／プレゼンテーション法／実験・調査計画法／地域経営政策論／フィールド調査／環境教育法／保全生態学特論Ⅰ／保全生態学特論Ⅱ／
地域環境保全学特論Ⅰ／地域環境保全学特論Ⅱ／地域環境工学特論Ⅰ／地域環境工学特論Ⅱ／
地域デザイン学特論Ⅰ／地域デザイン学特論Ⅱ／地域創成科学特別演習Ⅰ／
地域創成科学特別演習Ⅱ／地域創成科学特別演習Ⅲ／地域創成科学特別演習Ⅳ／
地域創成科学特別実験Ⅰ／地域創成科学特別実験Ⅱ／地域創成科学特別実験Ⅲ／
地域創成科学特別実験Ⅳ

博士後期課程

地域環境科学研究科共通科目　研究倫理後期特講／インターンシップ

英語論文作成法／保全生態学後期特論／地域環境保全学後期特論／地域環境工学後期特論／
地域デザイン学後期特論／特別研究指導Ⅰ／特別研究指導Ⅱ／特別研究指導Ⅲ

主な就職先

国土交通省/千葉県庁/岡山市農業協同組合（JA岡山）/株式会社ブレック研究所/
株式会社CTIリード/株式会社シー・アイ・シー/山九株式会社

研究ピックアップ



在来植物の消失と繁殖干渉

近縁種の花粉が付着することによる繁殖成功度の低下は「繁殖干渉」と呼ばれ、植物の分布を決定する要因の一つです。私たちは在来植物と外来植物の繁殖干渉に着目し、里山生態系の形成・維持機構を探っています。



野生動物の生息環境の解明

生物の生息環境を明らかにすることは、種や個体群を保全する上で重要です。野生動物（鳥類、両生類、昆虫類や陸生貝類）の生息環境を様々なスケールで理解し、土地利用や生息地復元に活かす研究に取り組んでいます。



地域のライフラインを守る

ライフラインの一つである道路の維持管理は地域づくりを進めていく上で必要不可欠です。地域環境工学研究室では，地域防災，農地保全の他に道路舗装の劣化予測とこれに基づいた維持管理費用の縮減方法の研究も行っています。



地域に学び地域をデザイン

持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて地域の自然資源・社会資源・人文資源を統合したデザインについて科学し、環境教育（ESD）・グリーンインフラ・観光計画・里山と暮らしなど地域づくりの研究に取り組んでいます。

国際農業開発学専攻

International Agricultural Development

「持続可能な農業」という新たな国際協力

世田谷キャンパス
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1



指導教授・准教授（博士前期・博士後期課程）2024年4月1日予定

- 足達太郎 教授 …… 昆虫・節足動物の生態と総合的害虫管理
- 入江憲治 教授 …… 熱帯作物の遺伝的多様性に関する研究
- 菊野日出彦 教授 …… 熱帯・島嶼地域における熱帯作物・果樹の生理生態に関する研究
- 小塩海平 教授 …… 熱帯園芸作物の化学的生育制御
- 志和地弘信 教授 …… 熱帯作物の生理生態に関する研究
- 杉原たまえ 教授 …… 農村開発と慣習
- 高根　務 教授 …… アフリカ諸国の農業・農村開発
- 中西康博 教授 …… 熱帯における栄養動態・環境インパクトに関する研究
- 本橋慶一 教授 …… 植物病原菌の分類・系統および診断
- 山田隆一 教授 …… アジアにおける農業経営の研究

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

グローバルに活躍するリーダーを養成

世界の食料・環境・貧困問題を解決するために持続可能な農業の確立と国際協力の実践にアプローチする専攻です。自然科学、社会科学の両分野にまたがる学際的研究により、農業開発や国際協力に関わる問題を論理的に考えることができる思考力と異なる文化や習慣を尊重し活動できる力を養います。現場への理解から先端科学技術の修得まで、研究室以外にも、フィールドで学ぶ充実した大学院教育を実施し、農業とその関連産業、農村、国際社会の発展に貢献できる、リーダーシップを備えた人材を送り出しています。講義は英語で行われます。

カリキュラム

博士前期課程

国際食料農業科学研究科共通科目　研究倫理特講／知的財産管理法／農学教育史特講／インターンシップ

論文作成法／サイエンスコミュニケーション法／国際協力のための英会話／
フィールド調査／生物生産科学特論／国際農業開発学特論／熱帯作物学特論／
熱帯園芸学特論／熱帯作物保護学特論／農業環境科学特論／農業開発経済学特論／
農村開発協力特論／国際農業開発学特別演習Ⅰ／国際農業開発学特別演習Ⅱ／
国際農業開発学特別演習Ⅲ／国際農業開発学特別演習Ⅳ／国際農業開発学特別実験・実習Ⅰ／
国際農業開発学特別実験・実習Ⅱ／国際農業開発学特別実験・実習Ⅲ／
国際農業開発学特別実験・実習Ⅳ

博士後期課程　＊全て英語で実施

国際食料農業科学研究科共通科目　研究倫理後期特講／インターンシップ

英語論文作成・プレゼンテーション／熱帯作物学後期特論／熱帯園芸学後期特論／
熱帯作物保護学後期特論／農業環境科学後期特論／農業開発経済学後期特論／
農村開発協力後期特論／特別研究指導Ⅰ／特別研究指導Ⅱ／特別研究指導Ⅲ

主な就職先

アルテア技研／クボタ建機ジャパン／トキタ種苗／ナガイホールディングス／日本農業／
フナコシ／横浜植木／公務員（農林水産省）／ウフル／学校法人東京農業大学

研究ピックアップ



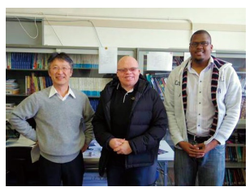
ヤムイモの生育に窒素固定細菌が関与

低肥沃土壌でも育つヤムイモ（*Dioscorea* spp.）には根粒菌の*Rhizobium* spp.や*Devosia* spp.が内生していることが明らかになりました。



多様なマングローブ生態系機能

熱帯・亜熱帯の沿岸に発達するマングローブ生態系は、津波や台風などに対する防風・防潮や陸由来物質の浄化などの多様な機能を有していますが、豊かな海産物を生産するプロセスにおける機能や、サンゴ礁生態系との相互関係などについて、世界でも先端的な調査・研究を展開しています。



アフリカの開発政策の影響を研究

アフリカの政府関係者（留学生）とともに、各国の開発政策が農村の人々の生活にどのような影響をもたらしているかを研究中です。文献研究や統計分析だけでなく、農村での実地調査を重視しています。



天敵を用いた害虫管理技術の開発

アフガニスタンから留学中の博士前期課程の大学院生が、化学農薬にたよらない害虫防除法を母国にひろめるため、作物を加害するカメムシ類の卵に寄生する寄生蜂の生態について基礎研究を行いました。

農業経済学専攻

Agricultural Economics

農業・食料・環境の問題に社会　科学の視点でアプローチ

世田谷キャンパス
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1







指導教授・准教授（博士前期・博士後期課程）2024年4月1日予定

- 大浦裕二 教授 …… 食品マーケティングと消費者行動に関する研究
- 金田憲和 教授 …… 農産物貿易の計量経済学的研究
- 菅沼圭輔 教授 …… アジアの農業・農村開発問題に関する研究
- 高柳長直 教授 …… フードシステムの空間構造に関する経済地理学的研究
- 田中裕人 教授 …… 環境評価に関する研究
- 寺内光宏 教授 …… 食料需給に関する計量経済学的研究
- 堀田和彦 教授 …… 農商工連携による地域活性化に関する研究
- 堀部　篤 教授 …… 新規就農・農業政策・地域ガバナンスに関する研究
- 吉野馨子 教授 …… 日本、「第三世界」の資源利用管理と地域社会に関する研究

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

問題解決に導く高い実践力を養成

農業経済学専攻は、農業、食料、環境に関わる諸問題を、社会科学の視点から解明することを目指しています。確かな分析力と論理的な思考力を持った研究者および高度専門技術者を養成するため、カリキュラムでは、農業経済学、フードシステム学、食料環境経済学を基幹科目に、専門領域における特論、総合演習を展開。これによって、国際的な視野に立った専門的な知識と研究手法を体系的に学ぶとともに、プレゼンテーション能力や問題解決能力も培います。修了生は、大学教員などの研究者や企業・団体の職員として活躍しています。

カリキュラム

博士前期課程

国際食料農業科学研究科共通科目　研究倫理特講／知的財産管理法／農学教育史特講／インターンシップ

農業法I／農業法II／社会統計学／計量経済学／農業経済学特論I／農業経済学特論II／フードシステム学特論I／フードシステム学特論II／食料環境経済学特論I／食料環境経済学特論II／農業経済学特別演習I／農業経済学特別演習II／農業経済学特別演習III／農業経済学特別演習IV

博士後期課程

国際食料農業科学研究科共通科目　研究倫理後期特講／インターンシップ

フィールド調査／研究発表手法論／農業経済学後期特論／フードシステム学後期特論／食料環境経済学後期特論／特別研究指導I／特別研究指導II／特別研究指導III

主な就職先

伊藤ハム販売／ジェーアールケー／神明／生活クラブ事業連合生活協同組合連合会／国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構／一般社団法人農山漁村文化協会／独立行政法人農畜産業振興機構／FutureOne／北海道農業協同組合中央会

研究ピックアップ



農業法人で働く正社員の定着要因の分析

先進的な農業法人では、正社員を雇用し大規模な経営を展開しています。正社員の定着要因を明らかにするため、業務参加による現場の詳細な把握と人事評価制度の理論的な分析を行っています。



食品ロスダイアリーが消費者行動を変えるメカニズム

捨てた食品を記録する「食品ロスダイアリー」が、家庭の食品ロス削減の手段として期待されています。食品ロスダイアリーがどのように消費者の意識や行動を変えるのかを、詳細な調査から明らかにしています。



深刻化する山村の空き家の今後を考える

山村地域での空き家は、空いているようで空いておらず、地域を出た人たちと残った人たちを結び付けています。空き家所有者等との交流イベント実施など、地域を盛り上げようとする取り組みも行われていました。



バングラデシュにおける安全な食肉のフードシステムを求めて

急速な都市化が進む途上国では安全な農産物供給が喫緊の課題です。同国のローカルで重要な食肉であるヤギを取り上げ、生産から消費までの実態と課題を、多様な利害関係者への調査から解明しました。

国際アグリビジネス学専攻

International Agribusiness Management

世界の食・農分野のビジネスを研究する

世田谷キャンパス

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1



指導教授・准教授（博士前期・博士後期課程）2024年4月1日予定

- 内山智裕 教授 …… 農業経営の参入・発展・継承に関する国際比較研究
- 大江靖雄 教授 …… ホスピタリティ・ビジネスとしての農村ツーリズム成立要因の解明
- 熊澤恵里子 教授 …… 教育の近代化に関する研究
- 渋谷往男 教授 …… 企業経営とマーケティング戦略
- 鈴村源太郎 教授 …… アグリビジネス経営者機能の解明ならびに都市農村交流など地域活性化に関する研究
- 畑中勝守 教授 …… アグリビジネス資源情報のデータベース化と分析に関する研究

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

食・農分野のビジネスリーダーを育成

国際アグリビジネス学専攻では、人類の生存に最も重要な食・農分野に関わるビジネス（アグリビジネス）を対象とし、国際化や技術革新、消費者志向の多様化などの変化に直面しているビジネスの実態を主として経営学の手法で分析する教育・研究活動を展開しています。こうして身につけた専門知識や問題発見・解決能力、さらに英語をはじめとする言語能力を駆使してアグリビジネスの経営展開を牽引するビジネスリーダーや理論構築を志向する研究者など、アグリビジネスの持続的発展に寄与する人材の養成を目指しています。

カリキュラム

博士前期課程

国際食料農業科学研究科共通科目　研究倫理特講／知的財産管理法／農学教育史特講／インターンシップ

論文英語Ⅰ／論文英語Ⅱ／農業ビジネス経営学特講／国際農業経営分析論特講／国際農業経営戦略分析手法／国際農業経営情報特講／国際農業マーケティング特講／国際農業経営組織学特論Ⅰ／国際農業経営組織学特論Ⅱ／国際農業経営管理学特論Ⅰ／国際農業経営管理学特論Ⅱ／国際農業経営戦略特論Ⅰ／国際農業経営戦略特論Ⅱ／国際アグリビジネス学特別演習Ⅰ／国際アグリビジネス学特別演習Ⅱ／国際アグリビジネス学特別演習Ⅲ／国際アグリビジネス学特別演習Ⅳ

博士後期課程

国際食料農業科学研究科共通科目　研究倫理後期特講／インターンシップ

上級論文英語Ⅰ／上級論文英語Ⅱ／国際農業経営情報後期特講／国際農業マーケティング後期特講／国際農業経営組織学後期特論／国際農業経営管理学後期特論／国際農業経営戦略後期特論／特別研究指導Ⅰ／特別研究指導Ⅱ／特別研究指導Ⅲ

＊全部あるいは一部を英語で実施

主な就職先

アイネットコープ／地方創生推進協同機構／国立大学法人金沢大学／東京農業大学／フィリピン大学ロスバニョス校（UPLB）／IPB大学

研究ピックアップ



農業法人の経営理念を探る

わが国の農業法人において、経営戦略の起点となる「経営理念」がどのように策定・活用され、どうすれば経営成果につながるのかについて、一般経営学の手法を導入しつつ実証的に研究しています。



日本の穀物調達戦略の解明

わが国は、油糧用大豆や飼料用とうもろこしを北米・南米から大量に輸入しています。本研究は、現地調達、船積み、日本への運搬といった穀物貿易の実務を担当している主要な日系商社の戦略と展望を明らかにします。



青果物物流におけるモーダルシフトの条件

青果物物流では現在主流のトラックから鉄道や船舶へのモーダルシフトが課題となっています。そこでアンケート調査と先進事例調査によりモーダルシフトに適した立地、品目、インフラ等の条件を解明します。



GISによるインドネシア海藻養殖支援

海藻はインドネシア沿岸漁村にとって重要な換金作物です。GISを使い人工衛星データと収穫データから海藻養殖の適合度を推計し生産計画を支援する，国際共同研究を実施しています。

国際食農科学専攻

International Food and Agricultural Science

食農資源の可能性を探究し
新たな価値を創造

世田谷キャンパス
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1



指導教授・准教授（博士前期・博士後期課程）2024年4月1日予定

- 大久保研治 教授 …… 地域資源の経済評価と持続可能な管理
- 上岡洋晴 教授※ …… 総合医療のシステマティック・レビュー、介入・観察研究における研究方法論
- 上岡美保 教授 …… 食料消費構造の変化と食育に関する社会科学的研究
- 篠原　卓 教授 …… 環境条件が園芸作物の種子や果実の品質に及ぼす影響に関する研究
- 原　珠里 教授 …… 農村地域におけるソーシャル・キャピタル、ジェンダーに関する研究
- 古庄　律 教授※ …… 食品の機能性に関する研究・ビタミンAの代謝に関する研究
- 宮浦理恵 教授 …… 持続的農業のためのアグロエコロジー研究
- 山内　淳 教授 …… 食品に含まれる成分の生理機能に関する基礎的研究

※博士前期課程のみ担当

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

食農資源の新たな価値創造に寄与する国際的な人材の養成

国際食農科専攻では、自然科学および社会科学にわたる学問領域からのアプローチにより、食農技術や食農経済に関わる国内外の諸問題の解決を図り、国際食農科学分野に必要な、植物生産、食環境、食農政策、食農教育等の教育並びに研究を行っています。科学的解析能力、論理的展開能力を修得できる教育研究体制のもと、研究能力およびリーダーシップ能力を備え、食農資源の新たな価値創造に寄与する国際的な人材の養成を目指しています。

カリキュラム

博士前期課程

国際食料農業科学研究科共通科目　研究倫理特講／知的財産管理法／農学教育史特講／インターンシップ

論文英語／プレゼンテーション法／食農技術学／食農経済学／植物生産学特論I／植物生産学特論II／食環境科学特論I／食環境科学特論II／食農政策特論I／食農政策特論II／食農教育特論I／食農教育特論II／食農技術学特別演習I／食農技術学特別演習II／食農技術学特別演習III／食農技術学特別演習IV／食農技術学特別実験I／食農技術学特別実験II／食農技術学特別実験III／食農技術学特別実験IV／食農経済学特別演習I／食農経済学特別演習II／食農経済学特別演習III／食農経済学特別演習IV

博士後期課程

国際食料農業科学研究科共通科目　研究倫理後期特講／インターンシップ

研究発表手法論／植物生産学後期特論／食環境科学後期特論／食農政策後期特論／食農教育後期特論／特別研究指導I／特別研究指導II／特別研究指導III

主な就職先

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社/守山乳業株式会社／長谷川香料株式会社/株式会社白子/サラヤ株式会社/イオンリテール株式会社/湯浅醤油丸新本家/博士後期課程進学

研究ピックアップ



食農を支える植物の探求

地域の食農基盤を支える植物は多彩で、生理生態的特性とともにそれを利用・管理する技術は様々です。本研究では、雑草や作物を対象とした植物の種子発芽から繁殖特性の多様性とその利用技術を解明し、持続的農業の実現を目指します。



高感度エストロゲン活性測定法を用いた食品のエストロゲン活性分析

エストロゲンは主に卵巣で作られる女性ホルモンです。一方で大豆イソフラボンなどの植物エストロゲンもよく知られていますがその全容は明らかではありません。そこで、高感度エストロゲン活性測定法を用いて様々な食品の活性を調べています。



農業者のSNS利用効果を探る

女性農業者の6次産業化に必要な情報取得におけるSNS利用状況と効果について調査・分析を実施し、アジア農村社会学会で発表しました。国や文化によりジェンダー秩序が異なることから、興味深い意見交換ができました。



アジア有機農家の変容を探る

日本とフィリピンの有機農業者育成の比較研究を行っています。複線経路等至性アプローチなど質的研究法採用は、階層断絶の傾向が強い東南アジア農村ではあまり例がなく、内外から大きな期待が寄せられています。

北方圏農学専攻（博士前期課程）

Northern Biosphere
北方圏の広大な

Agriculture
フィールドから分子まで。生物資源を科学する。

北海道オホーツクキャンパス
〒099-2493 北海道網走市八坂196



指導教授・准教授（博士前期課程）2024年4月1日予定

- 伊藤博武 教授 …… 畑作物の根系からみた栽培技術に関する研究
- 小栗　秀 教授 …… 植物における糖鎖とタンパク質の相互作用に関する研究
- 亀山祐一 教授 …… 哺乳動物の精子と卵子における発生工学
- 相馬幸作 教授 …… 飼育下におけるエゾシカの栄養学的研究
- 中丸康夫 教授 …… 農耕地土壌の持続的管理のための生物地球化学
- 中村隆俊 教授 …… 湿生植物の生態と生理
- 平山博樹 教授 …… 家畜の改良増殖に関する分子生物学的研究
- 吉田穂積 教授 …… 寒冷地畑作物の総合的生産管理法構築に関する研究
- 和田健太 教授 …… 動物の分子遺伝学的研究

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

生物産業をリードする研究者を育成

本専攻では、オホーツク圏を含む中・高緯度地域における食糧生産と、生物資源の利活用と保全に関わる生物現象を対象とし、多様な環境に配慮した生産力の拡大と生物資源機能の応用等にかかわる理論と技術について研究と教育を行います。その理念の基に、農業と自然に関わる生物現象から課題を発見し、基礎研究として成立させながらも最終的に生物産業に資する応用研究を目指します。研究分野 は農学、林学、畜産学、自然生態学に及びます。各専門領域の課題に対応可能な、高い専門性を備えた指導的役割を担う人材を養成します。

カリキュラム

生物産業学研究科共通科目

研究倫理と知的財産／プレゼンテーション技術演習／学術論文作成法

博士前期課程

遺伝子工学特論／分子細胞生物学特論／動物飼養管理学特論／保全生態学特論／
生殖補助医療特論／作物学特論／動物育種学特論／土壌学特論／植物育種学特論／
植物資源生産学特論(一)／植物資源生産学特論(二)／動物資源生産学特論(一)／
動物資源生産学特論(二)／生物資源保全学特論(一)／生物資源保全学特論(二)／
植物資源生産学特論実験(一)／植物資源生産学特論実験(二)／
動物資源生産学特論実験(一)／動物資源生産学特論実験(二)／
生物資源保全学特論実験(一)／生物資源保全学特論実験(二)／
北方圏農学特別総合実験

主な就職先

応用技術株式会社／株式会社イナリサーチ／日本クレア株式会社／
株式会社テクノプロR&D社／医療法人社団レディースクリニック京野／
金印アグリ株式会社／全農畜産サービス株式会社／株式会社サングリン太陽園／
北海道酪農畜産協会／全農畜産サービス／秋山記念病院

研究ピックアップ



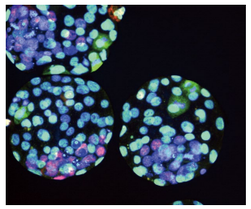
アッケシソウの耐塩性

北海道に自生する絶滅危惧植物アッケシソウは、高塩濃度土壌を好む塩生植物です。その耐塩性や塩依存性に重要な遺伝子の探索と、その遺伝子を利用した耐塩性型トランスジェニック作物の開発を行っています。



コムギの理想的草型

北海道オホーツク地方は道内でも有数のコムギ多収地帯です。本研究は従来のコムギ品種では着目されなかった草型や受光態勢に基づいて多収要因を解明し、品種の特性を活かした施肥技術などの開発を行っています。



卵子老化と受精後の分化能

哺乳動物卵子の老化は受精後の細胞分化に影響します。本研究は胎盤への分化に着目し、胎盤組織の形成に関わる細胞内シグナルとその制御因子の発現に及ぼす卵子老化の影響について栄養膜幹細胞を用いた解析を行っています。



鳥類の生態と保全の研究

森林、水域、草原、山岳地など北海道の広大なフィールドでの調査を基礎とし、希少大型猛禽類のオジロワシやオオワシをはじめとするさまざまな鳥類種や群集の生態解明と、その生息環境も含めた保全を目的とした研究を行っています。

海洋水産学専攻（博士前期課程）

Ocean and Fisheries Sciences

水圏のサイエンス を学び地球の未来を考察

北海道オホーツクキャンパス
〒099-2493 北海道網走市八坂196







指導教授・准教授（博士前期課程） 2024年4月1日予定

- 小林万里 教授 …… 海生哺乳類の行動・生態に関する研究とその保全管理
- 高橋　潤 教授 …… 寒海性海藻類の環境応答能に関する研究
- 千葉　晋 教授 …… 進化生態学の水産資源管理への応用
- 中川至純 教授 …… 氷海の動物プランクトンの生態に関する研究
- 西野康人 教授 …… 氷海と海草藻場の低次生産層に関する研究
- 渡邉研一 教授 …… 魚介類の安定生産のための安心・安全な防疫学

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

広い視野をもった水圏のスペシャリスト

オホーツク海や沿岸の湖沼群により形成されるオホーツク水圏は豊かな水産資源を生み出しています。また氷結する海域として、地球環境の鏡とも目される地域です。本専攻では、目の前に広がるオホーツク水圏での実践的教育・研究を通して、水圏資源の環境、生産、加工、流通・ビジネスを一連のプロセスとして学び、広い視野、創造性、柔軟性を養います。その上で、水圏環境学、水産生物学や水産増養殖学を基盤とした専攻分野において、専門性の高い指導的役割を担える人材の育成を目指します。

カリキュラム

生物産業学研究科共通科目

研究倫理と知的財産／プレゼンテーション技術演習／学術論文作成法

博士前期課程

水産増殖学特論／水産生態学特論／水族繁殖学特論／水圏生物化学特論／
氷海環境学特論／氷海生態学特論／水圏モニタリング特論／水圏生物資源学特論／
オホーツク水産生物学特論（一）／オホーツク水産生物学特論（二）／
オホーツク水圏環境学特論（一）／オホーツク水圏環境学特論（二）／
オホーツク水産生物学特論実験（一）／オホーツク水産生物学特論実験（二）／
オホーツク水圏環境学特論実験（一）／オホーツク水圏環境学特論実験（二）／
海洋水産学特別総合実験

主な就職先

（独）水産研究・教育機構／ミヤリサン製薬（株）／（株）島津アクセス／ニプロ医工（株）／
（株）三洋テクノマリン／（株）新生／（株）パブリックコンサルタント／（株）水辺環境研究所／
一般社団法人農山漁村文化協会／各漁業協同組合／北海道庁／高等学校教員／
博士後期課程進学

研究ピックアップ



アザラシの社会性の解明

一生を通して同じ岩礁を利用する定着性が高いゼニガタアザラシの体の斑紋模様の写真から個体識別をし、アザラシ同士の上陸場所や親子アザラシの関係等を調べて、彼らの社会性の解明を目指しています。



オホーツク海の豊かさ解明

北海道オホーツク海沿岸域は漁業生産性の高い海域である。これを支えているのは海の生態系の出発点に位置する植物プランクトンの高い生産力である。この高い生産力を支えている海の仕組みを調べています。



細菌性腎臓病を撲滅する

サケ科魚類の養殖で問題となっている細菌性腎臓病は、垂直感染により広がります。そこで、病原菌に効果のある薬を親魚に注射することによる、本疾病の防除効果について養殖場と共同で研究しています。



沿岸環境の保全の意義

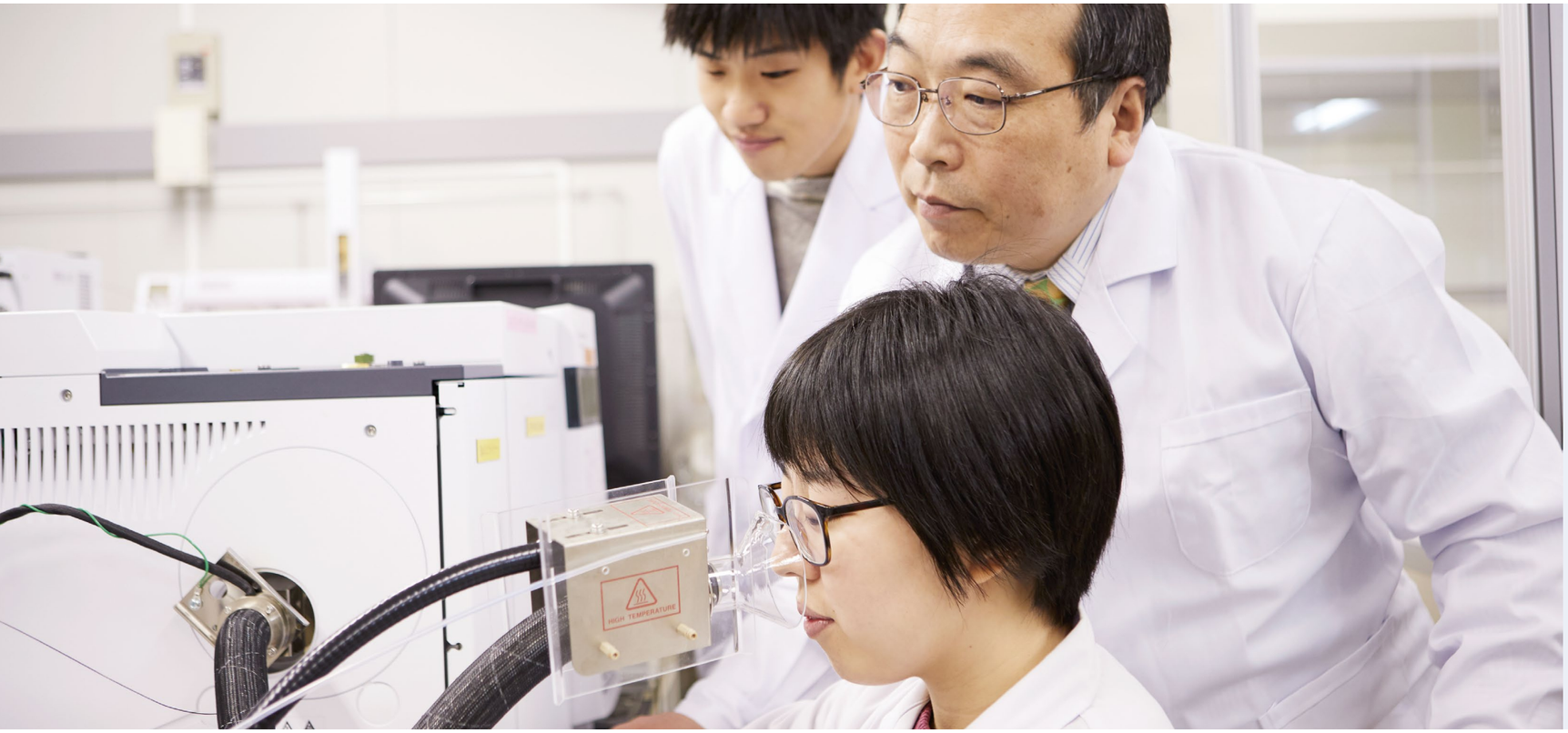
沿岸域の保全は地球規模で検討されるべき課題ですが、その意義は分かりにくいものです。新種の発見や動物行動の記録、生物多様性の定量化などを通して、森から海までの繋がりの重要性を解明しています。

食香粧化学専攻（博士前期課程）

Food, Aroma and
生活の質向上の

Cosmetic Chemistry Science
ための「食」「香」「粧」を考える

北海道オホーツクキャンパス
〒099-2493 北海道網走市八坂196



指導教授・准教授（博士前期課程） 2024年4月1日予定

- 相根義昌 教授 …… 食品・化粧品に関するタンパク質の構造と機能に関する研究
- 佐藤広顕 教授 …… センサーを活用した食品の美味しさや化粧品の嗜好性に関する客観的評価
- 中澤洋三 教授 …… 北海道の生物資源の食品化学特性を生かした食品の開発
- 丹羽光一 教授 …… 培養細胞を用いた食品・化粧品素材の機能性に関する研究
- 野島　聡 教授 …… 知床の自然資源を活用した新規香気成分や機能性天然物の探索
- 南　和広 教授 …… 食品・化粧品の三次機能に関する研究
- 妙田貴生 教授 …… 食品および香料資源の香気成分に関する研究
- 山﨑雅夫 教授 …… 食品の高品質化、高付加価値化に関する研究

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

独創性の高い研究で新たな価値を創出

「充実した生活」を送るためには、インナービューティーとアウタービューティー、すなわち体の中も外も健康を保つ必要があります。食品と香粧品は、人間の健康と充実した生活に直結する重要な要素です。食香粧化学専攻は、食生活と健康推進に関わる分野で、指導的役割を果たす人材の輩出を目的としています。その特徴は、地域の多彩で豊富な生物資源を扱い、独創性の高い研究ができるということです。生物資源の機能性や微生物利用、食品と香粧品の製造加工・安全管理に関する高度な知識と技術を修得することができます。

カリキュラム

生物産業学研究科共通科目

研究倫理と知的財産／プレゼンテーション技術演習／学術論文作成法

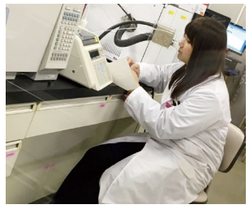
博士前期課程

食品製造学特論／香料解析学特論／タンパク質化学特論／バイオテクノロジー特論／
細胞生理学特論／生物有機化学特論／健康科学特論／食品科学特論／
加工開発学特論／生物資源科学特論／機能解析学特論／香料科学特論／
化粧品機能学特論／食品科学特論実験／生物資源科学特論実験／香料科学特論実験／
化粧品機能学特論実験／食香粧化学特別総合実験

主な就職先

味の素AGF／水ing／日本香堂／日本たばこ産業（JT）／NSファーファ・ジャパン／
金鳥（大日本除虫菊）／GABAN／小川香料／長岡香料／高田香料／
LUSHラッシュジャパン／サッポロビール／ALBION／エスフーズ／ゼンショー

研究ピックアップ



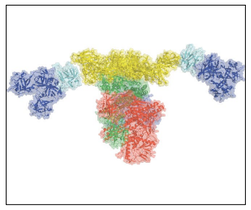
植物の特徴香気成分の特定

植物の香りは多くの成分で構成されますが、その全てが香りに寄与しているわけではありません。本研究では、各種クロマトグラフィーとヒトの鼻を駆使して植物の香りを特徴づける香気成分の解明を目指しています。



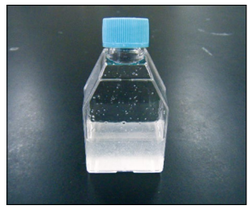
美味しさの客観的評価系の構築

食品の美味しさは人の五感によって評価されますが、その感覚や嗜好は人により異なるため客観的評価は困難です。そこで各種センサーを用いて色彩、香りおよび味を数値化し、官能評価と組合せた新たな評価系の確立を目指しています。



ボツリヌス毒素複合体の構造と機能

ボツリヌス毒素複合体（TC）は、地球上で最強の毒素タンパク質です。TCは、タンパク質であるにも関わらず消化液によって分解されず、体内へと侵入します。本研究の目的は、TCが体内へ吸収されるメカニズムを明らかにすることです。



エミューオイルの機能性

エミューオイルは皮膚浸透性が高く、化粧品として優れた性質を持っています。本研究では、培養細胞や人の皮膚を用いてエミューオイルの炎症効果や美白効果の機序を明らかにすることを目指しています。

自然資源経営学専攻（博士前期課程）

Business, Natural Resource and Economic Development

地方を活性化するビジネスモデルのシーズを追求

北海道オホーツクキャンパス
〒099-2493 北海道網走市八坂196



指導教授・准教授（博士前期課程）2024年4月1日予定

- 上田智久 教授 …… ものづくりを通じた地域創生に関する研究
- 宇仁義和 教授 …… 文化財・博物館や自然体験に関する研究と観光
- 笹木　潤 教授 …… 生態系サービスの経済評価、地域産業の経済波及効果分析
- 佐藤史郎 教授 …… 国際関係論、地域観光と国際政治
- 菅原　優 教授 …… 農業経営の発展と持続可能な地域環境ビジネスに関する研究
- 范　為仁 教授 …… 現代農業と農村発展、「三農」問題

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

グローバルに活躍する人材を育成

地域力の創造・地方の再生には、地域経済の分析能力、地域リーダーのマネジメント能力が必要です。本専攻は、経営学・経済学の理論と先端的手法を修得し、社会科学的分野から地域生物産業を活性化させ、企業の持続的発展と問題解決に寄与する実学に基づく研究活動を行います。地域資源を活用した地域ブランドの創造、6次産業化や農商工連携による地域産業の活性化、環境共生に向けた地域企業の環境マネジメントなどが主たる研究領域です。地域にこだわりグローバルに活躍できる専門職業人、経営コンサルタントや研究者を育成します。

カリキュラム

生物産業学研究科共通科目

研究倫理と知的財産／プレゼンテーション技術演習／学術論文作成法

博士前期課程

産業経営学特論／産業経営史特論／地域企業マーケティング特論／地域ビジネス特論／
環境経済政策特論／産業経済学特論／地域企業会計学特論／生産システム特論／
新事業開発特論／地域企業情報管理特論／ネイチャーマネジメント特論／文化観光特論／
東アジア農業経営経済特論／国際学特論／産業経営経済学特論(一)／
産業経営経済学特論(二)／地域企業マネジメント特論(一)／地域企業マネジメント特論(二)／
産業経営経済学特論演習(一)／産業経営経済学特論演習(二)／
地域企業マネジメント特論演習(一)／地域企業マネジメント特論演習(二)／
自然資源経営学特別総合演習

主な就職先

自営／教員（学校法人旭川大学 旭川大学）／北海道庁／奥州市役所／
オホーツク地域振興機構／日本農業経営大学校／東京農業大学／
自営（ビーイング、タクムガーデン）

研究ピックアップ



ビジネスホテルの経営戦略

ビジネス客を対象にサービスを提供するホテルの経営戦略を明らかにするためにヒアリング調査を実施しました。コロナ禍においてテレワーク向けデイユースプランによる新規顧客開拓の実態が明らかになりました。



観光に関するアンケート調査

観光に関する基礎的なデータと観光客の嗜好や傾向等といった行動様式のデータを収集するために、道の駅（網走市）でのアンケート調査を実施しました。この調査を基に、観光振興に関する提言をとりまとめました。



日本酒の嗜好性と「食のデータドリブン・マーケティング」研究

日本酒の販路拡大にむけて、風味データを基にして日本酒の類型化と地域別、国別の嗜好性を明らかにすることで、日本酒の味や香りの客観的データを基にした日本酒の製造者と消費者との効率的なマッチング手法を確立する研究に取り組んでいます。



中国の「新型農村集団経済組織」と女性農業者の社会進出

中国の農村では、女性農業者が農業の現場で重要な役割を果たしています。近年、各地で展開する「新型農村集団経済組織」のなかで女性農業者がどのような役割を担っているのか実態分析をしています。

生物産業学専攻（博士後期課程）

Bioindustry
循環型生物産業　　の実現をめざす

北海道オホーツクキャンパス
〒099-2493 北海道網走市八坂196











指導教授・准教授（博士後期課程）2024年4月1日予定

※研究テーマは、北方圏農学専攻（博士前期課程）P.46参照
- 伊藤博武 教授
- 小栗　秀 教授
- 亀山祐一 教授
- 相馬幸作 教授
- 中丸康夫 教授
- 中村隆俊 教授
- 平山博樹 教授
- 吉田穂積 教授
- 和田健太 教授

※研究テーマは、海洋水産学専攻（博士前期課程）P.48参照
- 小林万里 教授
- 高橋　潤 教授
- 千葉　晋 教授
- 中川至純 教授
- 西野康人 教授
- 渡邉研一 教授

※研究テーマは、食香粧化学専攻（博士前期課程）P.50参照
- 相根義昌 教授
- 佐藤広顕 教授
- 丹羽光一 教授
- 中澤洋三 教授
- 野島　聡 教授
- 南　和広 教授
- 妙田貴生 教授
- 山﨑雅夫 教授

※研究テーマは、自然資源経営学専攻（博士前期課程）P.52参照
- 上田智久 教授
- 宇仁義和 教授
- 笹木　潤 教授
- 佐藤史郎 教授
- 菅原　優 教授
- 范　為仁 教授

☆上記内容は2024年4月1日予定です。出願を希望する方は、必ず希望する指導（准）教授に事前に相談してください。

4専攻を統合する専門教育体系

生物産業学専攻は、博士後期課程として、前期課程の「北方圏農学専攻」「海洋水産学専攻」「食香粧化学専攻」「自然資源経営学専攻」の4専攻を統合した自然科学と社会科学融合型の専門教育体系を敷いています。各自が専攻する学問領域の実験・実習を含む科目とともに、他専修分野を横断的に学べる科目を設け、生物産業において国内外で指導的役割を果たせる幅広い見識と、高度な学問水準を両立させた研究者、技術者、経営者の育成を目指します。

カリキュラム

博士後期課程
生物産業学特別総合実験（農学分野）／生物産業学特別総合演習（経営学分野）

主な就職先
アニコム損害保険／国立大学法人九州大学／株式会社リガク／山梨学院大学／鎌倉女子大学／弘前大学／東京農業大学／北海道立衛生研究所／昭和女子大学

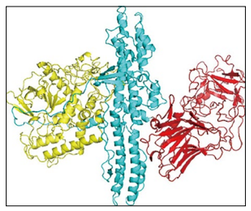
研究ピックアップ



アザラシの食性変化
海の環境や餌種の資源量の変化、競合種の有無や個体数の変化によって、ゴマフアザラシの食性がどのように変化しているのかを調べることにより、彼らの食性から海を評価することを目指しています。



キタキツネの分子生態学
キタキツネは、北海道固有のアカギツネ亜種です。本研究は、キタキツネ新規DNAマーカーの開発に成功し、糞由来DNAを用いた分子生物学的研究によって、キタキツネの個体識別、ならびに餌生物種の同定を可能にしました。



毒素を美容や医療に応用
ボツリヌス毒素は、特有のメカニズムで神経細胞に侵入します。この細胞内侵入メカニズムを利用し、ボツリヌス中毒の治療法を開発しています。この手法は、神経組織で発生する疾患の治療への活用も期待されます。



ワイン産地形成の研究
北海道に展開するワイナリー経営への実態調査を実施しました。北海道はワインの新興産地ゆえの技術的課題はあるものの、6次産業化を志向する小規模ワイナリーの存在が産地形成の鍵を握ることが明らかになりました。

新時代の農学を学ぶ3つのキャンパス

伝統のなかに専門性と学際性が息づく
東京農大の都市型メインキャンパス

世田谷キャンパス

東京農大の伝統を支え続けてきた都市型メインキャンパス。大学院応用生物科学研究科4専攻、生命科学研究科3専攻、地域環境科学研究科4専攻、国際食料農業科学研究科4専攻及び応用生物科学部、生命科学部、地域環境科学部、国際食料情報学部の計15学科の学生が学び、深遠なる学問追究のアカデミズムとともに、学際性を色濃く映し出している。

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1



農学のあらゆる可能性へアプローチできる、
緑あふれる公園型キャンパス

厚木キャンパス

キャンパスのコンセプトは「理論と実践の一体化」。まさに東京農大の“実学主義”が具現化した形の厚木キャンパス。実験や実習をふんだんに取り入れた実践的な教育・研究が積極的に推進されている。大学院農学研究科4専攻、農学部4学科の学生が、フレッシュな学生生活をエンジョイしている。

〒243-0034 神奈川県厚木市船子1737



雄大な自然が学ぶ者を大きく育んでくれる
ビッグスケールキャンパス

北海道オホーツクキャンパス

北海道の大自然に抱かれた広大なキャンパス。豊富な生物資源、大規模な農地や豊かな漁場と身近に接しながら、大学院生物産業学研究科5専攻、生物産業学部4学科の学生が、心ゆくまで自分の興味を追究している。地域と協力し、地場産業に直結した研究活動も盛んに展開しており、生産から加工、流通ビジネスまで、すべての生物産業を視野に入れながら学んでいくことができる環境だ。

〒099-2493 北海道網走市八坂196



奨学金制度について

東京農大では、創立125周年記念事業として、平成28年度より大学院奨学金制度を改正し、大学院進学を希望する皆さんの応援をしています。
詳細については、募集要項でご確認いただくか、学務課又は各キャンパス学生教務課にお問い合わせください。

◆東京農業大学大学院奨学生

第一種奨学生

対象者　博士前期課程および博士後期課程入学者のうち該当者全員
減免額　授業料の1/2および整備拡充費の1/2相当額

第二種奨学生

対象者　東京農大学部卒業生全員
減免額　入学金相当額

第三種奨学生

対象者　博士前期課程の私費外国人留学生で
東京農大学部に4年以上在学し、卒業した者。または海外協定校を卒業した者。
定員は、各専攻の入学定員の半数
減免額　入学金、授業料および整備拡充費の全額相当額

◆学びて後足らざるを知る奨学生（学後知不足）

対象者　博士後期課程入学者のうち、東京農大学部に4年以上在学して卒業し、かつ大学院博士前期課程・修士課程を修了した者のうち該当者全員
減免額　入学金、授業料、整備拡充費の全額相当額

奨学生採用後の学費

博士前期課程

（単位：円）

	初年度				2年次		
	学費金額	奨学生採用後の学費			学費金額	奨学生採用後の学費	
		第一種	第一種・第二種	第三種		第一種	第三種
①	1,285,600	865,600	595,600	175,600	1,085,600	640,600	195,600
②	1,450,600	1,015,600	745,600	310,600	1,220,600	770,600	320,600
③	1,469,600	1,034,600	764,600	329,600	1,258,600	808,600	358,600
④	1,480,600	1,045,600	775,600	340,600	1,260,600	810,600	360,600
⑤	1,502,600	1,067,600	797,600	362,600	1,294,600	844,600	394,600

博士後期課程

（単位：円）

	初年度				2年次			3年次		
	学費金額	奨学生採用後の学費			学費金額	奨学生採用後の学費		学費金額	奨学生採用後の学費	
		第一種	第一種・第二種	学後知不足		第一種	学後知不足		第一種	学後知不足
①	1,428,600	958,600	688,600	218,600	1,208,600	713,600	218,600	1,258,600	738,600	218,600
②	1,560,600	1,075,600	805,600	320,600	1,320,600	820,600	320,600	1,370,600	845,600	320,600
③	1,598,600	1,113,600	843,600	358,600	1,358,600	858,600	358,600	1,408,600	883,600	358,600
④	1,600,600	1,115,600	845,600	360,600	1,360,600	860,600	360,600	1,410,600	885,600	360,600
⑤	1,634,600	1,149,600	879,600	394,600	1,394,600	894,600	394,600	1,444,600	919,600	394,600

①農業経済学専攻、国際アグリビジネス学専攻、自然資源経営学専攻※1、生物産業学専攻（経営学分野）※2
②造園学専攻、国際農業開発学専攻、国際食農科学専攻
③農学専攻
④動物科学専攻、生物資源開発学専攻、デザイン農学専攻、醸造学専攻、食品安全健康学専攻、食品栄養学専攻、林学専攻、農業工学専攻、地域創成科学専攻、北方圏農学専攻※1、海洋水産学専攻※1、食香粧化学専攻※1、生物産業学専攻（農学分野）※2
⑤農芸化学専攻、バイオサイエンス専攻、分子生命化学専攻、分子微生物学専攻

※1：博士前期課程のみ　※2：博士後期課程のみ

学費について

2024年度入学生　初年度から次年度以降の納入金

農学研究科

博士前期課程

（単位：円）

専攻名	初年度 合計	大学納付金 入学金	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費	2年次 合計	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費
農学専攻	1,469,600	270,000	660,000	289,000	210,000	20,600	20,000	1,258,600	710,000	318,000	190,000	20,600	20,000
動物科学専攻	1,480,600			300,000				1,260,600		320,000			
生物資源開発学専攻	1,480,600			300,000				1,260,600		320,000			
デザイン農学専攻	1,480,600			300 000				1,260,600		320,000			

博士後期課程

（単位：円）

専攻名	初年度 合計	大学納付金 入学金	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費	2年次 合計	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費	3年次 合計	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費
農学専攻	1,598,600	270,000	760,000	318,000	210,000	20,600	20,000	1,358,600	810,000	318,000	190,000	20,600	20,000	1,408,600	860,000	318,000	190,000	20,600	20,000
動物科学専攻	1,600,600			320,000				1,360,600		320,000				1,410,600		320,000			
生物資源開発学専攻 ※	1,600,600			320,000				1,360,600		320,000				1,410,600		320,000			
デザイン農学専攻 ※	1,600,600			320,000				1,360,600		320,000				1,410,600		320,000			

※2024 年 4 月開設予定（届出申請中）。内容は予定であり、変更する場合があります。

応用生物科学研究科

博士前期課程

（単位：円）

専攻名	初年度 合計	大学納付金 入学金	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費	2年次 合計	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費
農芸化学専攻	1,502,600	270,000	660,000	322,000	210,000	20,600	20,000	1,294,600	710,000	354,000	190,000	20,600	20,000
醸造学専攻	1,480,600			300,000				1,260,600		320,000			
食品安全健康学専攻	1,480,600			300,000				1,260,600		320,000			
食品栄養学専攻	1,480,600			300,000				1,260,600		320,000			

博士後期課程

（単位：円）

専攻名	初年度 合計	大学納付金 入学金	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費	2年次 合計	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費	3年次 合計	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費
農芸化学専攻	1,634,600	270,000	760,000	354,000	210,000	20,600	20,000	1,394,600	810,000	354,000	190,000	20,600	20,000	1,444,600	860,000	354,000	190,000	20,600	20,000
醸造学専攻	1,600,600			320,000				1,360,600		320,000				1,410,600		320,000			
食品安全健康学専攻	1,600,600			320,000				1,360,600		320,000				1,410,600		320,000			
食品栄養学専攻	1,600,600			320,000				1,360,600		320,000				1,410,600		320,000			

生命科学研究科

博士前期課程

（単位：円）

専攻名	初年度 合計	大学納付金 入学金	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費	2年次 合計	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費
バイオサイエンス専攻	1,502,600	270,000	660,000	322,000	210,000	20,600	20,000	1,294,600	710,000	354,000	190,000	20,600	20,000
分子生命化学専攻	1,502,600							1,294,600					
分子微生物学専攻	1,502,600							1,294,600					

博士後期課程

（単位：円）

専攻名	初年度 合計	大学納付金 入学金	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費	2年次 合計	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費	3年次 合計	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費
バイオサイエンス専攻	1,634,600	270,000	760,000	354,000	210,000	20,600	20,000	1,394,600	810,000	354,000	190,000	20,600	20,000	1,444,600	860,000	354,000	190,000	20,600	20,000
分子生命化学専攻	1,634,600							1,394,600						1,444,600					
分子微生物学専攻	1,634,600							1,394,600						1,444,600					

地域環境科学研究科

博士前期課程

（単位：円）

専攻名	初年度 合計	大学納付金 入学金	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費	2年次 合計	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費
林学専攻	1,480,600	270,000	660,000	300,000	210,000	20,600	20,000	1,260,600	710,000	320,000	190,000	20,600	20,000
農業工学専攻	1,480,600			300,000				1,260,600		320,000			
造園学専攻	1,450,600			270,000				1,220,600		280,000			
地域創成科学専攻	1,480,600			300,000				1,260,600		320,000			

博士後期課程

（単位：円）

専攻名	初年度 合計	大学納付金 入学金	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費	2年次 合計	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費	3年次 合計	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費
林学専攻	1,600,600	270,000	760,000	320,000	210,000	20,600	20,000	1,360,600	810,000	320,000	190,000	20,600	20,000	1,410,600	860,000	320,000	190,000	20,600	20,000
農業工学専攻	1,600,600			320,000				1,360,600		320,000				1,410,600		320,000			
造園学専攻	1,560,600			280,000				1,320,600		280,000				1,370,600		280,000			
地域創成科学専攻	1,600,600			320,000				1,360,600		320,000				1,410,600		320,000			

国際食料農業科学研究科

博士前期課程

（単位：円）

専攻名	初年度 合計	大学納付金 入学金	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費	2年次 合計	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費
国際農業開発学専攻	1,450,600	270,000	660,000	270,000	210,000	20,600	20,000	1,220,600	710,000	280,000	190,000	20,600	20,000
農業経済学専攻	1,285,600			135,000	180,000			1,085,600		155,000	180,000		
国際アグリビジネス学専攻	1,285,600			135,000	180,000			1,085,600		155,000	180,000		
国際食農科学専攻	1,450,600			270,000	210,000			1,220,600		280,000	190,000		

博士後期課程

（単位：円）

専攻名	初年度 合計	大学納付金 入学金	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費	2年次 合計	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費	3年次 合計	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費
国際農業開発学専攻	1,560,600	270,000	760,000	280,000	210,000	20,600	20,000	1,320,600	810,000	280,000	190,000	20,600	20,000	1,370,600	860,000	280,000	190,000	20,600	20,000
農業経済学専攻	1,428,600			178,000	180,000			1,208,600		178,000	180,000			1,258,600		178,000	180,000		
国際アグリビジネス学専攻	1,428,600			178,000	180,000			1,208,600		178,000	180,000			1,258,600		178,000	180,000		
国際食農科学専攻	1,560,600			280,000	210,000			1,320,600		280,000	190,000			1,370,600		280,000	190,000		

生物産業学研究科

博士前期課程

（単位：円）

専攻名	初年度 合計	大学納付金 入学金	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費	2年次 合計	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費
北方圏農学専攻	1,480,600	270,000	660,000	300,000	210,000	20,600	20,000	1,260,600	710,000	320,000	190,000	20,600	20,000
海洋水産学専攻	1,480,600			300,000				1,260,600		320,000			
食香粧化学専攻	1,480,600			300,000				1,260,600		320,000			
自然資源経営学専攻	1,285,600			135,000	180,000			1,085,600		155,000	180,000		

博士後期課程

（単位：円）

専攻名（専修系列）	初年度 合計	大学納付金 入学金	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費	2年次 合計	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費	3年次 合計	大学納付金 授業料	大学納付金 実験実習演習費	大学納付金 整備拡充費	大学納付金 学生厚生費	その他の諸会費
生物産業学専攻（農学分野）	1,600,600	270,000	760,000	320,000	210,000	20,600	20,000	1,360,600	810,000	320,000	190,000	20,600	20,000	1,410,600	860,000	320,000	190,000	20,600	20,000
生物産業学専攻（経営学分野）	1,428,600			178,000	180,000			1,208,600		178,000	180,000			1,258,600		178,000	180,000		

備考（1）大学納付金の消費税は非課税。（2）その他の諸会費の内訳は、農友会費1万円、教育後援会費1万円。（3）継続して進学する場合。①入学金不要 ②整備拡充費は博士前期課程2年次と同額（4）留年生（原級、復学を含む）の授業料、実験実習演習費は、その在籍する該当年次生の入学時に定められた金額を適用する。

入試情報

入試スケジュール

2023年度10月入学　大学院入試日程

農学研究科/国際食料農業科学研究科

	出願資格認定試験 申込受付期間※1	検定料支払期間・出願期間	試験日	合格発表	入学手続期間	学費納入期間
2023年度 10月入学入試	2023年 4月18日（火） ～20日（木）	検定料支払期間　2023年 6月 1日（木）～ 8日（木） 出願期間　2023年 6月 6日（火）～ 8日（木）	2023年 7月8日（土）	2023年 7月14日（金）	2023年 8月23日（水） ～24日（木）	2023年 8月14日（月） ～24日（木）

生物産業学研究科

	出願資格認定試験 申込受付期間※1	検定料支払期間・出願期間	試験日	合格発表	入学手続期間	学費納入期間
2023年度 10月入学入試	2023年 4月18日（火） ～20日（木）	検定料支払期間　2023年 6月 1日（木）～ 8日（木） 出願期間　2023年 6月 6日（火）～ 8日（木）	2023年 7月8日（土）	2023年 7月14日（金）	2023年 8月16日（水） ～17日（木）	2023年 8月7日（月） ～17日（木）

2024年度4月入学　大学院入試日程

農学研究科/応用生物科学研究科/生命科学研究科/地域環境科学研究科/国際食料農業科学研究科

	出願資格認定試験 申込受付期間※1	検定料支払期間・出願期間	試験日	合格発表	入学手続期間	学費納入期間
2024年度4月入学 学内推薦入試		検定料支払期間　2023年 5月1日（月）～ 9日（火） 出願期間　2023年 5月8日（月）～ 9日（火）	2023年 農学専攻　6月 1日（木） デザイン農学専攻　5月31日（水） 醸造学専攻　5月31日（水） 食品安全健康学専攻　5月31日（水） 食品栄養学専攻　5月31日（水） 分子生命化学専攻　5月31日（水） 農業工学専攻　5月31日（水）	2023年 6月7日（水）		
2024年度4月入学 1期入試 社会人特別選抜入試 ※2	2023年 4月18日（火） ～20日（木）	検定料支払期間　2023年 6月 1日（木）～ 8日（木） 出願期間　2023年 6月 6日（火）～ 8日（木）	2023年 7月8日（土）	2023年 7月14日（金）	2024年 3月1日（金） ～5日（火）	2024年 2月20日（火） ～3月5日（火）
2024年度4月入学 2期入試 社会人特別選抜入試 国際協力経験者入試	2023年 10月3日（火） ～5日（木）	検定料支払期間　2023年12月 4日（月）～14日（木） 出願期間　2023年12月12日（火）～14日（木）	2024年 1月20日（土）	2024年 1月26日（金）		

生物産業学研究科

	出願資格認定試験 申込受付期間※1	検定料支払期間・出願期間	試験日	合格発表	入学手続期間	学費納入期間
2024年度4月入学 1期入試 社会人特別選抜入試	2023年 6月26日（月） ～29日（木）	検定料支払期間　2023年 8月16日（水）～ 25日（金） 出願期間　2023年 8月21日（月）～ 25日（金）	2023年 9月8日（金）	2023年 9月15日（金）	2024年 2月27日（火） ～3月5日（火）	2024年 2月19日（月） ～3月5日（火）
2024年度4月入学 2期入試 社会人特別選抜入試	2023年 11月13日（月） ～16日（木）	検定料支払期間　2024年 1月 5日（金）～12日（金） 出願期間　2024年 1月10日（水）～12日（金）	2024年 1月26日（金）	2024年 2月2日（金）		

※1：出願資格認定試験日は、各専攻で設定。
※2：2024年4月開設予定の農学研究科デザイン農学専攻博士後期課程については、2024年度4月入学1期入試、社会人特別選抜入試は、実施しない。
・上記各期間の窓口受付は、9:00～17:00、郵送の場合は、最終日必着とする。
・新型コロナウイルス感染症の影響等により、入試日程や実施方法が変更になる可能性がある。

出願方法等について

募集要項は東京農業大学大学院ホームページに掲載しますので、それぞれの試験制度・出願資格などを理解したうえで、出願期間・書類提出期限などに留意し出願してください。
なお、出願に際しては必ず事前に志望する専攻の指導教授・指導准教授と面談し、今後の研究内容等について相談してください。

入試データ

過去３年間の４月入学入試統計

課程	研究科	専攻名	2021年度計 志願者数 本学出身	2021年度計 志願者数 他大学	2021年度計 志願者数 計	2021年度計 合格者数 本学出身	2021年度計 合格者数 他大学	2021年度計 合格者数 計	2022年度計 志願者数 本学出身	2022年度計 志願者数 他大学	2022年度計 志願者数 計	2022年度計 合格者数 本学出身	2022年度計 合格者数 他大学	2022年度計 合格者数 計	2023年度計 志願者数 本学出身	2023年度計 志願者数 他大学	2023年度計 志願者数 計	2023年度計 合格者数 本学出身	2023年度計 合格者数 他大学	2023年度計 合格者数 計
博士前期・修士課程	農学研究科	農学専攻	21	4	25	19	1	20	18	2	20	13	1	14	10	1	11	10	1	11
		動物科学専攻	15	0	15	15	0	15	23	0	23	22	0	22	21	0	21	20	0	20
		バイオセラピー学専攻　＊2022年度募集停止	15	7	22	10	4	14												
		生物資源開発学専攻							17	1	18	14	1	15	27	0	27	24	0	24
		デザイン農学専攻							13	0	13	10	0	10	10	0	10	9	0	9
		計	51	11	62	44	5	49	71	3	74	59	2	61	68	1	69	63	1	64
	応用生物科学研究科	農芸化学専攻	41	0	41	31	0	31	39	1	40	36	1	37	33	2	35	28	1	29
		醸造学専攻	26	1	27	21	1	22	33	0	33	26	0	26	41	0	41	29	0	29
		食品安全健康学専攻	20	0	20	16	0	16	28	0	28	23	0	23	22	0	22	16	0	16
		食品栄養学専攻	7	4	11	2	2	4	9	2	11	8	1	9	6	4	10	4	0	4
		計	94	5	99	70	3	73	109	3	112	93	2	95	102	6	108	77	1	78
	生命科学研究科	バイオサイエンス専攻	71	2	73	62	0	62	60	1	61	50	1	51	58	0	58	52	0	52
		分子生命化学専攻	67	0	67	47	0	47	53	1	54	43	0	43	56	0	56	46	0	46
		分子微生物学専攻	64	0	64	48	0	48	46	1	47	34	1	35	48	2	50	35	1	36
		計	202	2	204	157	0	157	159	3	162	127	2	129	162	2	164	133	1	134
	地域環境科学研究科	林学専攻	14	1	15	9	1	10	10	1	11	9	1	10	12	0	12	9	0	9
		農業工学専攻	7	3	10	5	3	8	14	1	15	13	1	14	7	3	10	7	3	10
		造園学専攻	16	8	24	12	5	17	13	2	15	12	2	14	10	2	12	9	2	11
		地域創成科学専攻	8	0	8	8	0	8	7	0	7	7	0	7	11	0	11	10	0	10
		計	45	12	57	34	9	43	44	4	48	41	4	45	40	5	45	35	5	40
	国際食料農業科学研究科	国際農業開発学専攻	13	2	15	12	2	14	17	9	26	17	9	26	12	3	15	11	3	14
		農業経済学専攻	4	1	5	4	1	5	2	0	2	2	0	2	4	3	7	4	2	6
		国際アグリビジネス学専攻	3	3	6	3	3	6	7	4	11	6	4	10	7	2	9	5	2	7
		国際食農科学専攻	11	1	12	10	1	11	8	0	8	6	0	6	11	0	11	10	0	10
		計	31	7	38	29	7	36	34	13	47	31	13	44	34	8	42	30	7	37
	生物産業学研究科	北方圏農学専攻（生物生産学専攻）	9	0	9	6	0	6	10	0	10	5	0	5	8	0	8	6	0	6
		海洋水産学専攻（アクアバイオ学専攻）	10	0	10	4	0	4	4	1	5	4	0	4	8	1	9	6	1	7
		食香粧化学専攻（食品香粧学専攻）	7	0	7	6	0	6	13	2	15	12	1	13	7	0	7	3	0	3
		自然資源経営学専攻（産業経営学専攻）	1	1	2	1	1	2	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	0	1
		計	27	1	28	17	1	18	27	4	31	21	2	23	24	1	25	16	1	17
	博士前期課程合計		450	38	488	351	25	376	444	30	474	372	25	397	430	23	453	354	16	370
博士後期課程	農学研究科	農学専攻	2	0	2	2	0	2	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1
		動物科学専攻	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	4	0	4	4	0	4
		バイオセラピー学専攻	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1
		計	6	0	6	6	0	6	3	0	3	3	0	3	6	0	6	6	0	6
	応用生物科学研究科	農芸化学専攻	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1
		醸造学専攻	2	0	2	0	0	0	3	0	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0
		食品安全健康学専攻	0	0	0	2	0	2	1	1	2	1	1	2	0	2	2	0	2	2
		食品栄養学専攻	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	2	1	1	2
		計	4	0	4	4	0	4	5	1	6	5	1	6	2	3	5	2	3	5
	生命科学研究科	バイオサイエンス専攻	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	4	0	4	4	0	4
		分子生命化学専攻													4	1	5	4	1	5
		分子微生物学専攻													3	0	3	3	0	3
		計	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	11	1	12	11	1	12
	地域環境科学研究科	林学専攻	2	0	2	1	0	1	3	0	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0
		農業工学専攻	3	0	3	3	0	3	2	1	3	2	1	3	2	2	4	2	2	4
		造園学専攻	1	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1	2	1	3	2	1	3
		地域創成科学専攻													0	1	1	0	1	1
		計	6	0	6	4	0	4	6	1	7	6	1	7	4	4	8	4	4	8
	国際食料農業科学研究科	国際農業開発学専攻	4	1	5	4	1	5	7	1	8	7	1	8	2	2	4	2	2	4
		農業経済学専攻	1	0	1	1	0	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1
		国際アグリビジネス学専攻	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	0	2	2	0	2
		国際食農科学専攻													1	0	1	1	0	1
		計	7	2	9	7	2	9	9	3	12	9	3	12	5	3	8	5	3	8
	生物産業学研究科	生物産業学専攻	0	2	2	0	2	2	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0
		計	0	2	2	0	2	2	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0
	博士後期課程合計		23	4	27	21	4	25	26	5	31	26	5	31	28	11	39	28	11	39
大学院合計			473	42	515	372	29	401	470	35	505	398	30	428	458	34	492	382	27	409

東京農大大学院に入学を希望される方へ

大学院入学を希望する方は、大学院 HP および募集要項をよく確認してください。また、各専攻で開催される説明会へ出席し、指導を希望する教員への相談により、事前にテーマとの適合性および研究指導方針等について十分確認するようにしてください。説明会に出席できない場合や説明会を実施しない専攻については、指導を希望する教員に直接相談してください。

応用生物科学研究科
生命科学研究科
地域環境科学研究科
国際食料農業科学研究科
世田谷キャンパス：学務課
☎ 03-5477-2240
✉ innogaku@nodai.ac.jp

農学研究科
厚木キャンパス：学生教務課
☎ 046-270-6225

生物産業学研究科
北海道オホーツクキャンパス：学生教務課
☎ 0152-48-3813

東京農大大学院ホームページ　https://www.nodai.ac.jp/nodaigs/

東京農業大学大学院

GRADUATE SCHOOL OF
TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE
2024

世田谷キャンパス

応用生物科学研究科
生命科学研究科
地域環境科学研究科
国際食料農業科学研究科
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
Tel. 03-5477-2240

厚木キャンパス

農学研究科
〒243-0034 神奈川県厚木市船子1737
Tel. 046-270-6225

北海道オホーツクキャンパス

生物産業学研究科
〒099-2493 北海道網走市八坂196
Tel. 0152-48-3813

https://www.nodai.ac.jp/nodaigs/

東京農業大学は、財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）受審の結果、大学基準に適合していると認定されました。









